

矢作川流域圏懇談会通信

H30 山部会編 vol.1



発行日：平成 30 年 6 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第46回山部会WGを開催しました！

5月18日(金)～19日(土)に第46回山部会WGが根羽村にて開催されました。今回は、昨年度の活動を総括し、今年度の活動方針について確認しました。山部会のテーマである流域圏担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域木づかいガイドラインに関する今年度の計画を各担当者が説明をするとともに、規約の再確認、9年目以降の体制、9年間のまとめについて意見交換を行いました。



日時：平成 30 年 5 月 18 日（金）～19 日（土）

場所：根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」参加者：10 名(事務局を含む)

◆主な会議内容

1. 流域圏担い手づくり事例集について

流域圏担い手づくり事例集では、平成 25 年度から 4 年間かけ、主として矢作川の中山間地振興に携わる団体（一部川や海の活動団体を含む）の取材記録をまとめ、流域内の多様な主体によるネットワークづくりを支援する「山村再生担い手づくり事例集」を 4 冊発行しました。昨年度は、取材先として川や海の環境保全や水辺空間の再生・利活用に携わる団体を増やし、川部会と合同で 5 冊目となる事例集を「流域圏担い手づくり事例集」として発行しました。これらの事例集づくりによる人と人とのつながりをさらに深め、広めることをめざして、4 月に佐久島で事例集交流会 2018 を開催しました。

今年度は、ひきつづき他部会と協働して、「流域圏担い手づくり事例集Ⅱ」を作成したいと思います。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、今年度も矢作川感謝祭の開催を支援していきます。開催日は 9 月 2 日（日）に決定しました。また、矢作川林業担い手 100 人ヒヤリングについては、ひきつづき森林組合作業班を中心に取材を行います。

3. 矢作川流域森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、以下の項目について情報共有と意見交換を行いました。

- ◆原田裕保氏（元豊田市産業部長）の急逝について
水道水源保全基金（水 1t につき 1 円を水道料金に上乗せして、愛知県内の上流の自治体の森林整備を行う方法）という全国初の仕組みをつくりました。故人の実績に敬意を示すとともに、ご冥福をお祈りしました。
- ◆豊田市の 100 年の森づくり構想のリニューアルについて
次回 WG（豊田）において、豊田市森林課よりご報告いただくことになりました。
- ◆流域市村の間伐面積の推移について
ひきつづき長野県（平谷村、根羽村）、岐阜県（恵那市）、愛知県（豊田市、岡崎市）のデータを集めます。
- ◆国の森林環境譲与税に関する情報収集
平成 31 年度から、全国の各市町村に分配されることになっています。各自治体の使い道が注目されます。

4. 矢作川流域木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、以下の項目について情報共有と意見交換を行いました。

- ◆長野県の森林づくり県民税について
国の森林環境税の導入に対して、長野県では森林づくり県民税を継続することになっています。現在、国の譲与税と併せて、より細かな支援ができるよう基盤整備を行っています。
- ◆木づかいガイドライン・木づかい推進について
ガイドラインの作成にあたっては、根羽村森林組合から進めたいと思います。また、木づかい推進については、流域内外に拡大していきたいと考えています。もちろん、懇談会のアイテムである流域ものさしの発展もめざしたいと思います。

5. 懇談会の規約・合同部会の提案・9年間のまとめについて

設立時（H22）に作成された規約について、出席者全員で内容を確認しました。時代の経過とともに精査が必要な項目については、見直しをしていきます。

山川海の相互理解を深めるためには、研究データに基づく議論が必要です。懇談会内外の専門家に発表を依頼し、宿泊をともなった合同勉強会を 8 月 24 日、25 日に開催することになりました。

9 年間のとりまとめについて、山川海の議論を冊子にしてはどうかなどの提案がありました。今後も懇談会メンバーの意見交換を通して、見える化をめざします。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集について

- ・今年度は川部会に加え、海部会も巻き込んだ活動にしたいと思う。(服部)
▶ 事務局から、川と海部会 WG において取材協力と取材先の提案を募集してほしい。(洲崎)
- ・昨年度の事例集に関しては、ホームページに位置情報を付して掲載したい。取材者より取材先に活動位置を公表してよいか。もしよければ、場所はどこかを確認してほしい。(石原)
▶ 事務局から取材者へ依頼をお願いしたい。もし、取材者が動かない場合は、直接取材先に確認してほしい。(洲崎)
- ・昨年度掲載できなかった「鷲流峡復活プロジェクト」「内藤連三氏」については、今年度掲載する。(洲崎)

●矢作川流域山村ミーティングについて

- ・矢作川感謝祭については、内田実行委員長より懇談会へのお誘いをいただいた。前夜祭からの呼びかけをいただいたので、事務局としては対応したいと考えている。(服部)

●矢作川流域森づくりガイドラインについて

《原田裕保氏(元豊田市産業部長)の急逝について》

- ・合併後の豊田の森林行政は、原田さんなくては絶対にあり得なかった。(洲崎)
▶ 豊田市の森林行政は全国的にみても先進事例となった。原田さんに対して恥ずかしくない活動をしたい。(蔵治)

《国の森林環境譲与税に関する情報収集》

- ・森林面積割 50%、林業従事者割 20%、人口割が 30%で、山のない市町村にも譲与される仕組みである。愛知県では三河はともかく、尾張は森林組合が一つも存在しない地域であり、まずは担当部署を決めている状況だ。(蔵治)
▶ 根羽村には、平成 33 年度に契約の切れる安城市との分収育林がある。安城市は市域に山林を持たないが、譲与税を使ってその森林を買い取り、環境教育林として活用することを検討している。すぐそばには安城市の野外教育センターもあり、より効果的な活用が期待できる。(今村)
▶ 岐阜県の動きとしては、通常経費では使い道が不透明なので、受け皿となる基金の創設を促している。(大重)
- ・矢作川流域における森林譲与税の使い道について、情報収集を行いたいと考えている。(蔵治)

●矢作川流域木づかいガイドラインについて

- ・「月瀬の大杉」は観光地として整備されているが、地元の物産を売ればもっと集客力が上がるように思う。(蔵治)
▶ 多くの方からのご意見だと思うが、観光シーズンは限られており、なかなか難しい状況である。(今村)
- ・長野県の森林認証というのは、どのようなものか。(蔵治)
▶ 認証には森林認証と木材流通認証があるが、後者をより普及したいと考えている。(今村)
- ・木づかい推進に関して、東京スカイツリーで行う「どこでも餅つき」はいつ頃開催されるのか。(洲崎)
▶ 正月にスカイツリーの目の前で開催する予定だ。(今村)



◆根羽村におけるフィールドワーク(案内人:根羽村森林組合 今村参事)

《水源の森》茶臼山の山麓には、根羽村と安城市が共同管理(分収育林)する48haの森林があります。緩斜面に分布するヒノキ林や溪谷沿いの落葉広葉樹林は、世代を問わず観察することができ、環境教育林としての利用が期待されています。



《山地酪農》根羽村では、山林を開拓して牛を放牧する「山地酪農」の取り組みが始まっています。今回は、ジャージー牛(ユキちゃん)の放牧の様子、信州大学の研究フィールドとしての役割、今後の計画について学びました。



今後のスケジュール(予定)

山の地域部会は、平成30年6月8日(金)豊田市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H30 山部会編 vol.2



発行日：平成 30 年 7 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 47 回山部会WGを開催しました！

6 月 8 日(金)に第 47 回山部会WGが豊田市足助地区にて開催されました。今回の WG では、矢作川流域森づくりガイドライン、矢作川流域山村ミーティング、流域圏担い手づくり事例集、矢作川流域木づかいガイドラインに関して、現時点の活動状況と今後の予定について情報共有と意見交換を行いました。

日時：平成 30 年 6 月 8 日(金) 13:30~17:00
場所：豊田森林組合庁舎 会議室 参加者：21 名(事務局含む)



◆主な会議内容

1. 矢作川流域森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインでは、以下の項目について情報共有と意見交換を行いました。

◆故 原田裕保氏(元豊田市産業部長)の業績について

生前に親交のあった方々からお話を伺い、改めて故人の業績についての意見交換を行いました。

◆新豊田市 100 年の森づくり構想の概要について(豊田市産業部 鈴木晴彦様、中島諒大様)

2008 年度以降、過密人工林の減少、地域森づくり会議方式の普及など一定の成果をあげた一方で、材価の低迷や森林作業員の減少などは依然として改善されていません。また、新たな課題として、国の林業政策の転換や皆伐対策が未整備であることなどがあげられます。新たな森づくり構想では、以下の 6 つを柱として取り組んでいきます。

①新しい森林区分(ゾーニング)の設定 ②人工林の整備状況の評価と目標の再設定 ③人工林の目標林型の設定と将来木施業(新たに追加された概念)の導入 ④木材生産・流通の低コスト化 ⑤森林保全のルールの新規設定 ⑥森づくり人材の育成

◆市町村林務行政に関わる森林管理技術者の再教育の必要性について

近い将来に施行される森林経営管理法は、森林所有者が森林管理を行えない場合において、市町村が意欲と能力のある林業経営者に繋ぐ、もしくは直接管理することが義務になります。そのため、受け皿となる市町村の林務職員の能力向上が課題であり、大学等の高等教育もその一部に含まれています。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて



山村ミーティングでは、矢作川流域林業担い手 100 人ヒヤリングを実施しています。現在、半分程度を終えました。林業の教育の問題、森林組合内での横のつながりが不足しているなど、各地域に共通するさまざまな課題が明らかになってきました。また、9 月 2 日に開催される矢作川感謝祭については、前夜祭の開催も予定しています。前回参加した森林組合(根羽村森林組合、豊田森林組合、岡崎森林組合)に加え、農協の出展が決定しました。

3. 流域圏担い手づくり事例集について



「流域圏担い手づくり事例集Ⅱ」の作成に向けて、取材先の選定を行っています。取材先候補は現在、山の関係団体が 12 団体、川の関係団体が 7 団体となっています。現在、根羽村の漁協組合への取材も行いたいと考えています。

◆さくしま陽春のエコツアーの結果報告(矢作川環境技術研究会 野田賢司様)

本ツアーは、4 月に実施された事例集交流会 2018 の 2 日目のエクスカージョンとして実施されました。3 つのコース(山川海部会の活動のつながりを短時間で把握できるミニ流域圏コース、地史の変遷の流れを感じる時空ふれ合いコース、陸域と海岸の生態を観察する生命圏つながりコース)における、島の自然の科学的な調査結果について報告いただくとともに、意見交換を行いました。

4. 矢作川流域木づかいガイドラインについて



木づかいガイドラインでは、以下の項目について情報共有を行いました。

◆木づかいガイドライン・木づかい推進について

ガイドライン作成にあたって、取材や地域材に係る木づかい事例・活動などの情報を収集し、事例集のようなものを作成したいと考えています。また「私の流域ものがたり」の作成も進展させていきます。

◆農山漁村振興交付金について

根羽村において「森と源流の郷 NEBA 協議会」を中心に農泊を推進していきながら農業や漁業、林業の技術の伝授を通して地域の活性化を目指していきたいと考えています。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●矢作川流域森づくりガイドラインについて

《故 原田裕保氏（元豊田市産業部長）の業績について》

- ・ 森林経営管理法において森林所有者の責務が明確化されたことは、原田さんの思いに一致するところがあると思われる。（蔵治）
- ・ 規模の大小に関わらず山の所有者は山を持つ苦悩と孤独感を持っている。原田さんはそこにどう寄り添っていくかを考え、山林の自治というものを目指していた。（丹羽）

《新豊田市 100 年の森づくり構想の概要について》

- ・ 針広混交林化技術の未熟という課題に対して、何かアイデアはあるのか。（今村）
 - ▶ 新構想で新しい森林区分に再編成し、針広混交誘致林を整備するとともに、現場の状況に応じた施業を判断できる技術者を育成していきたい。（鈴木）
- ・ 森林ゾーニングの際の所有者との合意形成とゾーニング後の活用はどのようにしていくのか。（蜂須賀）
 - ▶ 森林組合と豊田市がバックアップして、森林所有者を中心に境界確認と間伐を行ってもらう。この中でゾーニングを提案する機会を作り、所有者の同意をとりながら区分して、目標林型をイメージした間伐を進めていく。（鈴木）
- ・ 森林経営管理法や新しくできた法律（森林環境税）と新構想との兼ね合いや位置づけはどのようなになるのか。（蜂須賀）
 - ▶ 新構想やこれまでの施策に沿って資金（森林環境税）の運用や活動を進行させるような形で考えている。（鈴木）



●矢作川流域山村ミーティングについて

《矢作川流域林業担い手 100 人ヒヤリング》

- ・ 森づくり会議に代表される森林自治について、十分に評価すべきだ。（丹羽）
- ・ 管理後の山の価値に対する評価方式の取り入れなど、作業者の士気を高める新たな雇用体制の整備が必要。（林）
- ・ 経営者や市役所職員、森林組合の職員が現場に出て、作業員とコミュニケーションをとれる環境を作りたい。（林）
- ・ 林業作業員の定着率が悪い。改善していくためには森林組合の受け入れ体制を見直す必要がある。（今村）

《矢作川感謝祭》

- ・ 矢作川感謝祭が森林組合同士の横交流の場となればよいと思う。（丹羽）
- ・ 感謝祭で個人の技術を披露する場を設け、子どもたちが林業に興味を抱く場にできればよいと考えている。（丹羽）

《その他》

- ・ 来年の春を目標に有志で実行委員会をつくり、いかだ下りを復活させようと考えている。（新見）

●流域圏担い手づくり事例集について

《流域圏担い手づくり事例集》

- ・ 根羽村の漁業協同組合さんは積極的に活動しており、訪問者の面倒や冷水病などの話が聞けると思われる。（今村）
- ・ 取材者の人数が不足ぎみの状態であるため、協力をお願いしたい。（蔵治）

《さくしま陽春のエコツアーの結果報告》

- ・ 白浜のごみの量が非常に減少した。ボランティアや小中学生の活動の賜物であると思う。（松井）
- ・ 庄内川と比較した結果を見ると、矢作川はそれほど濁っていないことが分かった。（野田）

●矢作川流域木づかいガイドラインについて

- ・ 地域材に係る木づかい事例集が整理されれば、森林環境税の使い方の参考になるかもしれない。（蔵治）
- ・ 根羽村以外の森林組合の木づかいについても、是非この場で取り扱うことにしたい。（今村）

★振り返り

よかったと思うこと：森林組合の役割の重要性がわかったこと。/配布資料が多く話し合いの参考になった。/新構想に関する行政の意見が聞けた。

よくなかったと思うこと：官民学全員参加の新構想になっていない。/話し合いの時間が不足。/会場がわかりにくい。

今後、取り組んでいきたい活動など：森林組合の方に山林の保全に対するプライドをさらに高めてほしい。/身近な水環境の全国一斉調査への参加。/森林保全。

今後のスケジュール（予定）

次回の山部会 WG は、7月6日（金）～7日（土）恵那（明智）にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H30 山部会編 vol.3



発行日：平成 30 年 7 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 48 回山部会WGを開催しました！

7 月 6 日（金）に第 48 回山部会WGが恵那市（明智）にて開催されました。今回の WG では、流域圏担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域森づくりガイドラインに関して、活動の進捗状況と今後の予定について情報共有と意見交換を行いました。



日時：平成 30 年 7 月 6 日（金） 14:00～17:30

場所：恵那市役所明智振興事務所 会議室 参加者：17 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 流域圏担い手づくり事例集について



「流域圏担い手づくり事例集Ⅱ」の作成に向けて、取材先の選定を行っています。取材先の候補は、山の関係団体が 12 団体、川の関係団体が 7 団体となっています。今後は取材者の募集も実施していきます。また、以前の WG で議題となった元豊田市産業部長の故原田裕保さんの業績について、これまでの意見と部会員以外の方への取材を通して、事例集に加えたいと思います。次に、大雨のために見学が中止となった「なつかしい未来の会」の活動について、事務局長の安藤由美子様に紹介いただきました。

◆なつかしい未来の会の活動紹介

なつかしい未来の会は 2015 年に設立した団体です。「山についてみんなで話し合う場を作りたい」というところからスタートしました。ワークショップを通して、里山文化の継承と林業および地域の活性化を目指しています。これまでの主な活動は以下の通りです。今後は、移住定住モデル事業や間伐講習、鹿柵の設置に取り組んでいく予定です。

- ・木馬（きんま）技術（木材の搬出方法）の体験 ・搬出した木の製材
- ・製材品を用いたコミュニティハウスの建設 ・自家製ピザ釜でのピザづくり
- ・桑茶、野草茶づくり ・キノコの菌打ち体験 など



2. 矢作川流域山村ミーティングについて



矢作川流域林業担い手 100 人ヒヤリングでは、約半数にあたる 47 名への聞きとりが終了しており、森林組合の森林技術者と林業関係者を数名集めて中間懇談会を行いました。その中で、森林技術者に対する教育や同僚との意見交換の必要性が話し合われました。9 月 2 日に開催される矢作川感謝祭では、4 つの森林組合と農協、漁協が一堂に会するイベントを予定しています。また、流域圏懇談会としての参加形態については、川部会と海部会での協議を合わせて検討していきます。



3. 矢作川流域森づくりガイドラインについて



岐阜県恵那農林事務所森林保全課長の小島徳文様から以下の項目についての情報を提供いただき、意見交換を行いました。

◆矢作川流域の治山事業に関して

治山事業の位置づけと規模、治山ダム役割に関する情報共有を行いました。恵那農林事務所管内における治山事業は、県下でも最多となっています。矢作川流域圏に関連する工事は平成 29 年度に 3 箇所、平成 30 年度に 4 箇所で開催されています。これらは、近年甚大な被害をもたらす洪水被害をできる限り予防するものです。

◆森林環境譲与税と新たな森林管理システムに関して

森林環境譲与税に関わる税金の徴収方法や予算配分の仕組み、新たな森林管理システムについて情報共有と意見交換を行いました。新たな森林管理システムは、森林所有者が自ら森林管理を実行できない場合に市町村が森林管理の委託を受け、意欲と能力のある林業経営者に繋ぐ制度です。森林環境譲与税の導入は、このような森林所有者の土地の管理と林業事業体の精査を大きな目的としていると考えられます。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集について

《取材先の選定と取材者の募集について》

- ・新しい取材者を募り、聞き書きのできる若者を育てていきたい。(沖)
- ・最近事例集の作成のみが目的となっていて、制作する過程の喜びが薄れている。そのため、新しい人が地域の活動に目覚めてもらえる場を設けたい。(丹羽)
- ・8月の合同部会で他部会の方を取材者として勧誘してみるのもいいかもしれない。(中田)
- ・取材者に推薦したい人に声を掛けてもらいたい。メーリングリストでも取材者を募集したいと思う。(洲崎)

《なつかしい未来の会の活動紹介》

- ・建物を建てる際に法的な規制や地域住民からの苦情はなかったのか。(浅田)
 - ▶都市計画区域外の場所で、道の新設や建物の建築に問題はなかった。また、代表者が地域でよく知られており、地域住民に対して活動内容を交渉してくれたことから、問題なく行われている。(安藤)



●矢作川流域山村ミーティングについて

《矢作川流域林業担い手 100人ヒヤリング》

- ・森林技術者は同僚との意思の共有を望んでいる。また、上に立つ人は自分の権限を理解し、森林技術者を孤立させないために、同僚との横のつながりを認めなければならない。(丹羽)
- ・森林技術者は丹羽さんを信頼している。その信頼に答えて林業活動は動き出すと思う。まさにそれが山村ミーティングの姿である。(山本)
- ・県の農林事務所は森林技術者の声を聞きにくい状況である。そのため、事務所と森林技術者の間で意思疎通ができておらず、食い違いが生じていることがある。(大重)
- ・平成24年の森林経営計画制度により、効率さを求めて森林技術者と事務所の関係に機械的な部分ができた。これにより、現場の声が事務所に届かなくなった。(小島)
- ・森林組合長の人柄によって、現場と事務所の関係が良いほうにも悪いほうにも変わりうるのが現状である。(小島)
- ・山のことを勉強し、現場に出て、森林技術者の気持ちを理解できる人が森林組合のトップとなるべきだ。(林)
- ・木を伐ることも運ぶこともできる森林技術者がいるが、どんな森をつくるかという教育ができていないのが現状である。(丹羽)



●矢作川流域森づくりガイドラインについて

《矢作川流域の治山事業について》

- ・やるべき箇所は全て工事済みであるのか、それとも予算等の制約で現状の進行状況にとどまっているのか。(蔵治)
 - ▶やりたい箇所は多くあるが、予算や書類上の制約もあり、取り組めていない箇所は残っている。工事する場所は市町村からの要望や危険箇所を中心に選定している。(小島)

《森林環境譲与税と新たな森林管理システムについて》

- ・現在進行中の意向調査が適切に執り行われないと、実態とそぐわない方向に税金が使用されると思う。(佐藤)
- ・自伐山主をやってこられた方たちを激励できるようなシステムができるとよい。(沖)

●その他(今後の活動)について

《合同部会について》

- ・講演は一番伝えたい事柄に絞り込み、その根拠となるデータを発表してもらうのがよい。また、意見交換は全ての講演が終了後、まとめて行うほうが効率的である。(蔵治)
- ・講演タイトルは全ての参加者が親しみやすい表現にしたほうがよい。(丹羽)

《第49回山部会WGについて》

- ・予定では9月7日となっていたが、8月24、25日に合同部会WG、9月2日に矢作川感謝祭が実施され、早急に話し合うべき内容は無いと考えられることから、9月の開催は見送り、次回の山部会WGは11月とした方がよいと思う。(洲崎)

今後のスケジュール(予定)

次回の山部会WGは、11月16日(金)～17日(土)岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H30 山部会編 vol. 4



発行日：平成 30 年 12 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 49 回山部会WGを開催しました！

11 月 16 日(金)に第 49 回山部会WGが岡崎市額田センターにて開催されました。今回も流域担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに対する継続的な議論とともに、次回以降議論する 9 年間の成果について情報共有を行いました。

日程：平成 30 年 11 月 16 日(金)～17 日(土)

場所：岡崎市額田センター こもれびかん 集会室 ・岡崎市千万町町 宮崎町

参加者：16 名(事務局含む)



◆主な会議内容

1. 流域圏担い手づくり事例集について

平成 27 年度までの 3 ヶ年、山村再生担い手づくり事例集として、山村漁村の振興に貢献する 64 団体への取材を行い、3 冊を発行しました。昨年度からは、より広い範囲の団体に焦点をあてた流域圏担い手づくりに名前を変えました。今年は、その 2 年目として活動を行っています。現在、取材者の募集を行っています。新たな取材者を募集するために、改めて、ML をつかって呼びかけたいと考えています。

今後の予定は以下のとおりです。

①事前検討会・取材・読み合わせ会(11～1 月) ②レポート提出(2 月) ③完成(3 月)

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、以下の 2 項目について情報共有と意見交換を行いました。

(1) 平成 30 年岡崎森林組合員の山林管理に関するアンケート

トヨタ財団の補助金を利用して、木の駅会議の額田優良材プロジェクトの一環として、岐阜県森林文化アカデミーの学生有志 5 人がアンケート結果の解析を行っています。11 月 20 日に森林アカデミー内で中間発表会を行い、12 月 8 日のおかざき森の健康診断報告会で中間報告を行います。

(2) 「矢作川流域林業就労中堅離職問題実態調査」～矢作川流域林業担い手 100 人ヒアリング～

国土緑化推進機構の補助金を使用して、矢作川森の健康診断実行委員会と矢作川流域圏懇談会で共同実施しています。年内に調査を完結して、最終報告書の作成に入ります。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

岡崎市環境政策課の斎藤様より、以下の 2 題をご提供いただき、意見交換を行いました。

(1) おかざき森の健康診断

平成 30 年 6 月に森の健康診断を実施し、12 月 8 日に報告会を行います。これまで岡崎市では 2008 年に第 1 回、2013 年に第 2 回を実施しました。この 2 回は、あまり変化がありませんでしたが、今回は良いデータが出ています。是非、ご参加ください。

(2) 森林環境譲与税

岡崎市では、森林環境譲与税として約 3000 万円が見込まれています。しかし、全ての岡崎市民の納得のいく使い途の検討は非常に難しいものとなっています。林業に充てる前に、街の人々に賛同を得るための環境教育、普及啓発にも使用しなければなりません。

4. 矢作川流域木づかいガイドラインについて

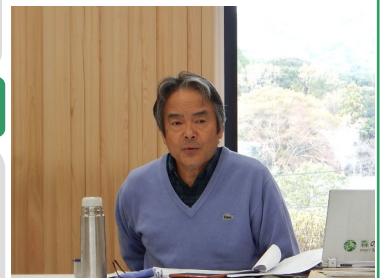
木づかいガイドラインでは、以下の 2 項目について情報共有・意見交換を行いました。

(1) 木づかいライブ・スギダラキャラバンの展開

現在、森林認証を取得した長野県の 4 つの団体の窓口として、木づかいの推進を行っています。年末年始は東京スカイツリーで活動を行う予定です。

(2) 木づかいガイドライン 「さあ～しよう」の作成

これまで行動に移れていませんが、まずは年内をめどに、アンケート用紙を矢作川流域市町村あるいは愛知県、岐阜県、長野県へ配信して、集めてみたいと考えています。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・最近取材先と取材者の関係が希薄になっているため、もう少し丁寧に事例集を作成したいと考えている。(洲崎)
- ・安城市で30社程度の企業が支援するいかだ下りを行う団体がある。余裕があれば候補にしてもらいたい。(太田)
▶取材者が集まれば、取材先として取り扱いたい。(洲崎)
- ・以前、この懇談会でも活動報告があった「つくラッセル」は、シェアハウスやカフェなどが並び、廃校のイメージを感じさせない場所となっている。メンマづくりプロジェクトもここで進められている。(洲崎)

●矢作川流域山村ミーティングについて

- ・特に岡崎森林組合のトップは、組合員の不平・不満に対して正面から向かい合う姿勢であり、敬服に値する。(丹羽)
▶流域の各森林組合員が意見交換と交流の場を持てることが望ましい。おそらく、考えは皆同じだと思う。(今村)
- ・都市と山村の収入格差は非常に大きい。山村の人たちの収入が増える仕組みが何かないかと考えている。(浅田)
▶その収入格差は、我が国の大きな課題の一つだ。ところが、今でも東京一極集中に歯止めがかかっていない。そこで、私は木材利用を促進するためのソーシャルビジネスを提案している。(筒井)
- ・林業の担い手たちが発するさまざまな「ツイト」をとりまとめて、一つの成果にしたい。(丹羽)
- ・フランスでは国土の環境を守るために、農林業に対して莫大な補助金を支払っている。(太田)
▶西欧諸国の多くは、田舎に住むこと自体が公共的な役割とされ、国が収入を補填する仕組みとなっている。(蔵治)
- ・オリジナルの技術・技能を持っているがゆえに山村で輝ける人生だと言える社会を根羽村で証明したい。(今村)
- ・四国・九州では更新伐といって更新するために皆伐をする補助制度がある。四国や九州ではそのようなニーズがあり、この地域とはまったく違う世界になっている。(蔵治)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

《おかざき森の健康診断について》

- ・参加者数は年齢に比例していたが、地域の中学生・高校生・大学生に東大の学生も加わり、活気があった。(齋藤)
▶40代までの人がこれだけ参加するのは珍しい。(近藤)

《国の森林環境譲与税について》

- ・岡崎市の使途について、どのような人々が検討に関わっているのか。(今村)
▶市役所内部が圧倒的だが、森林組合、林業クラブ、木の駅の関係者、山主などにも意見をうかがっている。(齋藤)
▶豊田市は森づくり委員会という基盤を整備している面で先進的だが、それが機能するかが重要である。(丹羽)
- ・豊川流域ではこの税金を流域市町村が話し合って使用すると聞いた。矢作川流域と比べて進んでいるのか。(齋藤)
▶矢作川流域よりずっと進んでいる。1t1円の水道料金上乗せ制度は、豊根村から田原市のすべての市町村が導入しており、議論しやすい環境となっている。一方で、矢作川は豊田市のみで行われ、今後も続ける方針だ。また、豊田市は森林環境譲与税の使い途を、現在の施策に組み込む方針を4月時点で提示している。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・森林認証とは村の森林のどの範囲になるのか。(蔵治)
▶約7000ha、グループ認証といって、森林組合・安城市・明治用水・長野県・林業公社が取得している。(今村)
- ・現在、豊田森林組合と連携しているが、森林環境譲与税を使って流域の全組合と連携できたらと考えている。(今村)

●山部会の9年間のまとめについて

- ・事例集活動拠点位置図、フィールドワーク位置図などの流域マップも9年間の成果にしたい。(事務局)
- ・木づかいについては、この懇談会がなければ、これほどの成果は出なかったと思う。木づかいライブ・スギダラキャラバンは、非常に力を入れてきたことであり、これだけで一つの成果になると考えている。(今村)
- ・目に見える成果はもちろん大事だが、成果にできない部分の検討についても記録に残すべきだ。(浅田)
- ・この懇談会は、いろいろな役割を果たしてきたと思う。異なる業種の人々が話し合う「場」の役割は大きい。(丹羽)

◆岡崎市におけるフィールドワーク(案内人:一般社団法人 奏林舎 唐澤晋平代表理事)

《みかわエコ薪》千両町の鶏舎跡地では、この地域で搬出された間伐材を活用した薪づくりが行われていました。1パレット1万円で、薪ストーブを展開する事業所や家庭に配達しています。薪割り体験などを行いながら、薪の生産や販売ルートについて学びました。

《貯木場》宮崎の貯木場には、生産者が示された原木が保管されており、その目的・流通の現状と課題を学びました。



今後のスケジュール(予定)

山部会のまとめの会は、1月29日(火)岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H30 山部会編 vol.5



発行日：平成 30 年 12 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第50回山部会WGを開催しました！

12月7日(金)に第50回山部会WGが豊田市にて開催されました。今回は、通常の山部会のテーマとともに9年間の活動に関する意見交換を行いました。豊田市より森づくりに関する進捗状況(人材育成手法)、信州大学より根羽村における林道が及ぼす生物多様性について話題提供いただき、意見交換を行いました。

8日(土)のフィールドワークでは、豊田市下山地区で活動する「神殿の森づくり」の森林整備を学ぶとともに、岡崎市の「森の健康診断報告会」に参加しました。

日時：平成30年12月7日(金)～8日(土)

場所：(WG) 豊田市下山交流館第11会議室 (フィールドワーク) 豊田市・岡崎市

参加者：(WG) 11名 (フィールドワーク) 13名 ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 山部会9年間の活動と成果

9年間の活動を振り返ると、当初は何をしてよいのかわからないまま集まっていました。次第に参加者が減っていき、これはまずいということで、議論を重ねて平成24年5月に『出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有』を整理し、人と山村の課題では、「山村再生担い手づくり事例集」「山村ミーティング」の2つの解決手法、森林の課題では、「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の2つの解決手法が抽出され、主担当を選出して取り組んできました。今回のWGでは、参加者全員で活動を振り返り、これまでに「できたこと」「もう少しでできたこと」「できなかったこと」について、意見交換を行いました。



2. 流域圏担い手づくり事例集について

現在、「流域圏担い手づくりⅡ」の作成に向けて対象団体を絞り、取材を行う段階となっています。現段階の取材先は以下の通りです。今後も取材をすすめ、読み合わせ会にむけたとりまとめを進めていきます。

【山の関係団体】 12団体

・つくラッセル ・正晴会 ・伊熊宮農クラブ ・NPO法人マルベリークラブ中部 ・すぎん工房 ・畦道 ・三州しし森社中
・原田裕保氏 ・奏林舎 ・間伐こもれび会 ・ウッドデザインパーク ・ぬかたブランド協議会 ・ぬかた木材生産組合

【川の関係団体】 7団体

・鷺流峡(がりゅうきょう)復活プロジェクト ・根羽川漁業協同組合 ・愛知・川の会 ・岩本川創遊会 ・豊田土地改良区資料室
・原田裕保氏 ・内藤連三氏 ・安城市矢作川くだり実行委員会

【海の関係団体】 1団体

・有限会社オフィスマッチングモウル

3. 矢作川流域山村ミーティングについて

矢作川流域林業担い手(森林技能員)100人ヒヤリングは、中堅技術者(就労4年～54歳未満)の離職を深刻な問題と捉え、その実態の把握と改善の糸口をつかむのが目的です。昨年度から始まったこの活動も半数が終わり、助成をいただいた「緑の水の森林ファンド(国土緑化推進機構)」への中間報告を済ませたところです。これから残りのヒヤリングを進め、次年度最終報告をしたいと考えています。

【提案】

この成果の報告会を、2019年夏ごろに矢作川流域圏懇談会として開催することを提案します。その報告会は、山部会9年間の活動報告会として位置づけ、流域圏担い手づくり事例集、森づくりガイドライン、木づかいガイドラインの成果についても、同時に発表するものとして考えています。

4. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、以下の3項目について、情報共有と意見交換を行いました。

◆豊田市の森づくり(人材育成事業)に関する進捗状況(豊田市産業部 鈴木晴彦様、宮口顕汰様)

豊田市(新・森づくり構想)では、森林施業プランナーの育成手法として、豊田市、岐阜県森林文化アカデミー、豊田森林組合の3者が連携協定を締結し、現在6名が2年間の研修を行っています。

◆森林路網がスギ人工林内の光環境と植物多様性に及ぼす影響(信州大学農学部 城田徹央様)

根羽村における調査の結果、森林路網は植物種の多様性を高めることがわかりました。また、光環境の向上から、外来種が侵入しやすいものの、幅員が狭いことで優占が抑えられ、植物種の多様性の低下には影響しないことがわかりました。

◆無限の可能性を秘める「木軸立体」の紹介(基ディザイン研究所 筒井信之様)

2m程度の角材を金具を介して組み立てるものです。木の駅などの間伐材の有効活用に提案したいと考えています。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山部会 9 年間の活動と成果

- ・矢作川流域の生活も 50 年が過ぎたが、懇談会員にならなければ、知らないことばかりだったと思う。いろいろ勉強することができて、今では流域での暮らしを誇らしく感じている。(沖)
- ・流域連携アイテムに「流域ものさし」があるが、都会のものさし、田舎のものさし、つまりは山川海のものさしが違うことに気づいた。その違いを共有できるものさしが欲しいと考えている。(近藤)
- ・9 年かけて、山川海のそれぞれの土台ができたと感じる。今後は、横断的につながることを望んでいる。(高橋)
- ・矢作川の活動を学生が学び、社会(就職活動等)に伝えて行くことが我々大学側の役割だと考えている。(城田)
- ・他部会とのコミュニケーションについては、課題が残っているため、今後も取り組んでいきたい。(蔵治)
- ・事例集の活動では、流域のさまざまな団体を発掘することができ、つながりがもてたことは大きな成果だ。(洲崎)

●流域圏担い手づくり事例集

- ・宮崎財産区、石原林道協議会、ぬかたブランド協議会、ぬかた木材製材業組合の 4 団体については、取材すべき団体と考えられるため、今年度に取り扱えなくても次年度の候補にしたい。(洲崎)
 - ▶ 宮崎財産区は、400ha 以上の森林を管理する、岡崎市で最も古く活気のある財産区である。(眞木)
 - ▶ 宮崎財産区とぬかた木材製材組合の 2 団体は、地元である私が担当したいと考えている。(沖)
- ・1 月後半に「読み合わせ会」を行う予定であるため、取材と執筆を進めてほしい。(洲崎)

●矢作川流域圏山村ミーティング

- ・9 年間の実績はたくさんあるので、それらを報告することは、流域圏内外への発信として、とても重要なことだ。ただ、山部会だけで行うのではなく、懇談会全体の活動報告会に含まれることが望ましいと思われる。(蔵治)
 - ▶ この懇談会には、三河湾や伊勢湾の活動の中心人物も含まれることから、次年度は皆で開催するイベントを 1 回程度行えるとよい。(高橋)
 - ▶ 山川海が一緒にイベントを行う時、報告の対象は誰かを考える必要がある。(近藤)
- ・流域圏懇談会の報告会は、対象が流域市民にできる。しかし、林業担い手 100 人ヒヤリングの結果報告は、どちらかというと流域の林業に関わる市民である。(洲崎)
- ・林業担い手 100 人ヒヤリングの結果報告は、流域圏懇談会の報告会とは別物として取り扱うことにしたい。(蔵治)

●矢作川流域圏森づくりガイドライン

《豊田市の森づくり(人材育成事業)に関する進捗報告》

- ・この人材育成にどのくらいの予算を投じているのか。また、森林組合の負担はどれくらいか。(眞木)
 - ▶ ドイツ・スイスでは、行政の 100%補助で人材を育成している。それは見習うべきことで、豊田市においても最大級の補助率を適用している。また、森林組合の負担は多少ある。(鈴木)
- ・現在のリーダ候補生は 6 名だが、将来的にはどうするのか。また、市内の担当エリアはどうするか。(城田)
 - ▶ 将来 10 名のコア人材を育てたいと考えている。それから、エリア分けについては、豊田市 6 地区に対して一人ずつ配置して、コントロールタワーを担っていただこうと考えている。(鈴木)
- ・豊田市は森林組合に飛び込んで指導してくれる。なかなかそこまで介入する行政はない。(眞木)
 - ▶ 人口減少化社会の中で、公共ができる領域は確実に減っている。森林環境譲与税が騒がれているが、これは我々の財源の 3 分の 1 にも満たない。そんな中、人材育成は喫緊の課題として取り組んでいる。(鈴木)
- ・豊田市は、全国的にみても突出している先進地だ。(蔵治)
 - ▶ 岐阜県飛騨市では広葉樹の森づくりを宣言している。また、郡上市では森林保全のガイドラインを作成し、防災研修を重ねている。市としては、他の先進地と連携しながら行政のレベルアップをめざしている。(鈴木)

◆神殿の森づくり会議の現場見学

【案内人】代表松田敏明様(上)、加藤鎌一様(下)

【場 所】豊田市中心部町地内

豊田市の森づくり会議は、平成 20 年度に策定された「豊田市森づくり基本計画」において、森林所有者が町や自治会の範囲で、森づくり団地の設定、境界確認作業、森林整備の方向性を話し合うために設立された組織です。松田様と加藤様に、神殿町の森づくり団地、補助金を活用した林道などをご紹介いただき、先進的な森づくりの現状を学びました。



◆おかざき森の健康診断報告会への参加

森の健康診断は、矢作川流域から全国に広がった市民参加型の人工林の健全度を把握する取り組みです。岡崎ではこれまでに H20、H25、H30 の 3 回実施され、市域の人工林についての把握が行われました。今回は、活動の集大成として、市民のみならず、県内外からの参加者もみられました。



今後のスケジュール(予定)

山部会まとめの会は、1 月 29 日(火) 岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H30 川部会編 vol. 1



発行日：平成 30 年 6 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 46 回川部会WGを開催しました！

5 月 25 日（金）に第 46 回川部会WGが開催されました。今回の WG では、昨年度の活動の振り返りと今年度の川部会 WG の進め方について意見交換を実施しました。また、話題提供として内田座長の研究室が取り組んでいる矢作川の底生動物の調査結果について紹介をいただきました。



日 時：平成 30 年 5 月 25 日（火）9:30～12:00

会議場所：豊田市崇化館交流館

参加者：19 名（事務局含む）

◆主な活動内容

1. 本日の話し合いでわかったこと、決まったこと



■今年度の川部会WGの進め方と今後の活動の方向性について話し合いをしました

OWG開催日数は昨年度までの月1回のペースから、2～3か月に1回程度のペースとします。

OWGでの議題について、山部会や海部会にも関係するテーマや興味をもっているような内容を取り上げることに努めます。

○本川モデルについて、土砂堆積や流出、洪水氾濫など上下流域に直結する課題について話し合いの場を設けます。また、矢作川本川で国交省、愛知県、豊田市が取り組んでいる対策の実施状況と効果について、情報共有の場を設けます。

○家下川モデルについては、従来の新排水機場設置の進捗状況の確認に加え、家下川の源流部から最下流部までを探索し、流域を実体験しながら語り合う『エコツアー』の開催を企画します。

○地先モデルについては、昨年度から山部会と合同で取り組んでいる「流域圏担い手づくり事例集」の作成活動に参画し、情報共有を図ります。今年度の川関係の取材候補団体を以下の7団体とします。

- | | |
|------------------|------------------|
| ・飯田市 鷺流峡復活プロジェクト | ・根羽村漁業協同組合 |
| ・豊田市 梅坪水辺愛護会 | ・豊田市 岩本川創遊会 |
| ・岡崎市 内藤連三 | ・岡崎市 おとがワ！ンダーランド |
| ・豊田市 土地改良区資料室 | |

○合同部会について、山部会主催の8月会合には、川部会からも矢作川の水質について話題提供します。また川部会が主催する合同部会WGでは“土砂を軸とした山、海とのつながりについて”を話題とする方向で調整します。

○9年間の活動の総括と今後の活動の方向性については、情報のデータベース化と見える化の観点から議論を進めます。





●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(●意見 ▶回答)

- 給砂実験や阿摺ダムの実験は、将来のどういう目的のためにやっているのか？例えば、どこのダムにたまっている砂を流せば効果的なのか？(光岡)
- ▶ 国土交通省ではダムに堆砂した土砂を自然の状態で下流に流すことを理想として、色々な対策を試みているのが実状である。まずは、どの程度の量は流下させるのがいいのか、計画的に進める必要があると思われる。特に矢作川では中電のダムもあるため、関係機関との調整が必要となってくる。(事務局)
- ▶ 矢作川の問題はアーマー化した河床をどのようにして自然に戻すかである。各機関で色々な取り組みを行っているが、大きな問題は土砂が供給されないことと、大規模な洪水が必要ということである。洪水によって下流まで土砂が流されないと意味がない。流域に洪水を受け入れる許容性が必要である。(近藤)
- 漁協からの要望としては、フラッシュ放流の研究を進めてほしい。治水の安全対策を進めなければならないのは理解できるが、フラッシュ放流に関する研究、話し合いは進めることができると思う。(新見)
- 本川モデルとしては、国交省、愛知県、豊田市の各機関が本川で取り組んでいる内容を持ち寄って、話し合うのがよい。家下川モデルについては、排水機場の進捗状況について確認していただきたい。地先モデルは流域圏担い手づくり事例集を進めるということによい。(内田)
- 家下川モデルについては、野田さんと協力して佐久島で事例集交流会後に実施したエコツアーを家下川でも実施したいと考えている。ここで佐久島での実施状況を野田さんに紹介していただきたい。(事務局)
- 佐久島では山、川、海を一緒に体験できるエコツアーを企画して開催した。当日は3つのコースを設定した。小さな矢作川を体験できるミニ流域圏コース。河口から西側にある集落を対象とした時空ふれあいコース。西側の海岸で海食崖や磯の環境を対象とした生命圏つながりコース。短時間での探索であったが、干潟の生物調査や佐久島の地史、風土の体験することができ、とても有意義な内容であった。(野田)
- 流域圏担い手づくり集について、昨年度から山部会の企画に川部会の方にも参加していただくことで協力していただいた。今年度も同様の形式、スケジュールで進めたい。また、川に関係する活動団体も取材対象として取り上げたいと考えているので、候補があれば提案していただきたい。(洲崎)
- 貯木場の近くを流れる川で小さな自然再生を実施している団体がある。愛知県では先駆的な事例になるので取材先候補として推薦したい。(近藤)
- 今年度のまとめと今後の活動の方向性について、各部会の座長が集まって議論する場を設けることになる。このとき、川部会から話しておいて欲しいことはないか。(内田)
- 9年の次のステージ以降で、定常的な情報がない状況で議論していることが多いので、外部からも内部からも話し合いの状況が不透明なものが多い。それぞれの地域、そのときの活動の情報が見えるようなデータベース化も必要であり、議論しやすい環境作りをお願いしたい。(鷲見)

●(話題提供) 内田座長の研究室が取り組んでいる矢作川の底生動物調査について

- 矢作川で土砂の移動を増やすという実験に取り組んでいる中で、生物の観点からどのような変化があるかを把握するため、土砂の攪乱環境を好むキカワゲラ属の分布傾向を調べています。
- 阿摺ダム下流で取り組んでいるアユの生息環境改善実験の中で、礫置き区における河床の環境改善効果の指標として水生昆虫の種数、個体数の動態についてモニタリングを実施しています。
- 矢作川に生息する外来生物のカワヒバリガイの分布傾向と繁殖実態について調査し、発生源となっているダムを推定しています。

今後の流域圏懇談会の予定



■第47回川部会 WG

※詳細日時は ML にて決定します。

日時：平成30年7月27日(金) 午後

内容：本川モデル 国交省、愛知県、豊田市が実施する河川整備の取り組みについて



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

調査課 服部

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。





発行日：平成30年9月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第47回川部会WGを開催しました！

7月27日(金)に第47回川部会WGが開催されました。今回のWGは、矢作川本川で国交省、愛知県、豊田市の各行政機関が取り組んでいる河川環境関連の調査や河川整備対策について、これまでの取り組みによる効果、得られた知見、また今後の整備予定等について意見交換を行いました。



日時：平成30年7月27日(金) 15:30～18:00

会議場所：豊田市崇化館交流館

参加者：19名(事務局含む)

◆主な活動内容

1.本日の話し合いでの話題提供について



■阿摺ダム下流アユ生息環境改善実験について～ 話題提供者：豊田市矢作川研究所 山本研究員～

○矢作川のアユについて年々生息数が減少しており、その大きな要因はアーマコート化した河床環境にあります。

○阿摺ダムの下流に矢作ダムに堆積した礫を活用して、アーマコート化する前の柔らかな河床を創出し、アユの行動を観察する取り組みを実施しています。

○観察の結果、実験区間内でアユの生息数が増加し、アユが餌とする付着藻類の生息量も増加しましたが、なわばりを形成するアユは少なく、今後どのような環境条件であればなわばりアユが増加するかを引き続き観察します。



■矢作川総合土砂管理について ～ 話題提供者：国土交通省豊橋河川事務所 ～

○総合土砂管理計画の策定に向けて、技術的な課題を解決するための課題を整理するとともに、「目指すべき姿」に向けて土砂対策量(排砂量、掘削量など)を一次元河床変動計算や現地実験をふまえて土砂管理対策を検討しています。

○課題解決に向けた取り組みの一つとして、平成28～29年度に給砂装置(ベルトコンベア)を用いた土砂投入実験を実施しました。



■矢作川古崩水制工について～ 話題提供者：愛知・川の会 近藤会員～

○矢作川への環境への取り組みは全国でも有名であり、矢作川水質保全協議会の発足・活動をはじめ、様々な活動を率先して実施してきました。

○愛知県では平成2年から矢作川の環境整備計画の策定に向けた取り組みをはじめ、平成3年には多自然型川づくりの一環として、コンクリートを使わない巨石の水制工を古崩地区に整備しました。

○愛知県でもアーマコート化した河床環境を改善するための取り組みとして土砂投入実験を実施しましたが、効果は全く分らなかった経験があります。





●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶ 回答)

- 数センチよりも粒径が小さいマサ程度の土砂はほとんどないという状況でよいのか。出水時にそのような土砂が石の表面をあらうようなクレンジング効果があるとみてよいのか。(鷲見)
- ▶ 出水後にきれいになっているところがあるが、それが砂による効果か、水だけによるものなのかメカニズムが解明できていない。(山本)
- やわらかな河床とおっしゃられたが、どのような状況であるか？それを望ましいと思っているか？(光岡)
- ▶ 出水時に小さな石から大きな石も動いていく状況をイメージしている。(山本)
- ▶ 過去に漁協が作成した資料で、昔の矢作川の川底は柔らかくて、川の中に人が立っていると、足周りがえぐられて、体が沈むような感じになると記載されている。(内田)
- やわらかい河床というのは、いつ頃の年代のことを言っているか？(河瀬)
- ▶ 昭和40年代であり、矢作川ダムが完成する前は川の中に樹木はほとんどなかった。昭和47年にダムが完成してから河床が低下し、砂利採取もなくなり、滞りが固定し、樹林化が進行してきた。(加藤)
- ▶ 矢作ダムが完成して、すぐに環境が悪くなったわけではなくて、少し時間が経ってから環境が悪化してきたというのが、一般的な知見である。(内田)
- ▶ 昭和55年ごろまで柔らかい環境が散見されていた。矢作ダムが完成するまで洪水が頻繁に起きてきたが、ダムが完成してから洪水がほとんど無くなった。東海豪雨を除くと、昭和47年7月の災害以降、近年では大雨が降る機会も減っている。(小澤)
- 今年度の研究成果について提言としてとりまとめるということであるが、どのようなものか？(内田)
- ▶ 川の管理者に提出することを考えている。対象は中部電力や愛知県である。上流から石が流下しないことで、アユが定着しないということをもっと共通の認識としたい。(山本)
- 総合土砂管理計画を作成する際に他の計画との位置づけはどのようなものか？川の中の形についても関係してくると思われるが、河川整備計画との関係はどのようなものか？(鷲見)
- ▶ 上下関係から言えば、河川整備計画が上位計画となる。河川整備の基本計画であり、これを守ったうえで土砂をどのように流下させるかというのが総合土砂管理計画になる。河道内でどの程度の土砂量が必要なのかを検討しながら、計画に反映している。(事務局)
- 土砂供給実験で下流側に変化がなかったという結果について、良かったという認識か、変化ないので意味がなかったという認識か？(光岡)
- ▶ 愛知県でも土砂供給実験を行ったことがあるが、全く成果が得られなかった。ある程度のフラッシュで土砂が流下して、瀬や淵ができたというのが成果になるのではないかと。(近藤)
- ▶ 総合土砂の観点からは上流に堆積した土砂を適正に水の力をもって、流すことができたというのが成果という認識である。(事務局)
- 実験で流した程度だと変化がなかったということであれば、瀬や淵を作るならば、もっと流す必要があるのではという認識である。(光岡)
- どれぐらいの土砂が剥離効果を与えるかという話がある。どれぐらいの流量でどれぐらいの土砂が流れて効果があるのかというのを流量と土砂の両面からどうコントロールするのかが検討する必要がある。(鷲見)
- これまで矢作川関連の会議には愛知県の豊田加茂土木事務所が必ず参加していたので、今後の情報共有のためにも参加を希望する。(近藤)

今後の流域圏懇談会の予定



■第48回川部会WG

日時：平成30年10月(予定)

内容：家下川モデル 上下流ウォーキング(予定)

※詳細日時はMLにて決定します。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本 調査係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H30 川部会編 vol.3



発行日：平成30年11月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第48回川部会WGを開催しました！

10月30日（火）に第48回川部会WGが開催されました。今回のWGは、矢作川本川で国土交通省が実施した高橋上流～久澄橋下流区間の河道掘削および樹木伐開施工箇所の現地視察を行いました。また、視察後は9年間の活動のとりまとめについて意見交換を行いました。



日時：平成30年10月30日（火）14:00～17:30

現地視察：矢作川高橋上流～久澄橋下流

会議場所：豊田市崇化館交流館

参加者：19名（事務局含む）

◆主な活動内容

1. 矢作川：河川整備箇所の現地視察



■高橋上流から久澄橋下流で実施している河道掘削、樹木伐開の施工地を視察しました。

○当該地区は平成12年9月の東海豪雨により越水、漏水等の大きな被害を被りました。

○国土交通省では再度災害防止のため、漏水対策護岸を順次施工してきており、平成27年度から当該区間の河道掘削を実施しています。

○平成30年度も引き続き、河川協力団体の協力を頂き樹木伐開および河道掘削を実施しています。

○視察当日は、内田座長と愛知工業大学の学生が施工後の河川区間内に生息する底生動物を捕獲し、川の環境と生物の関係について解説をいただきました。



〔施工写真〕

施工前



施工後



2.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ➤ 回答)

1 矢作川の河川整備に関する意見交換

○矢作川の出水によって最も影響が大きいと想定されるのが今日視察した場所か？今回の工事でどの程度の余裕が確保できたのか？今の河道掘削を始める前までは、一番余裕がなかったという理解でよいか？（内田）

➤ 一番という記憶はない。ただし、豊田市街地のほとんどの区間を河道掘削しているので、全体的に余裕が確保されていると見込んでいる。途中、鵜の首の狭窄部があるが、山付であることと周辺に市街地がないことから影響は小さいと想定している。（事務局）

○矢作川河川整備計画において、根本的な治水対策として鵜の首の狭窄部を開削して、治水安全度を上げるという計画があるということを聞いたことがあるが、そのスケジュールはあるか？（内田）

➤ 鵜の首を開削することは下流に流れる水量が増えるということである。このため、下流の安全度を高めてから整備を進めることになる。その前に、本川の河道掘削や矢作ダム貯留効果を上げる対策も必要である。いずれにせよ、計画上の目標は平成50年度であり、具体的な対策はまだ作られていない。（事務局）

➤ 下流から安全度を高めていくのが河川整備の基本であるが、課題は上流の土地の安全度を高めることは、より多くの流量を下流に流すことになり、整備後の下流の危険度が上がることになる。機械的に下流から河川改修をやっていくことが本当に正しいかどうかは難しい面がある。（近藤）

2 9年間のとりまとめに関する意見交換

○山、川、海及び全体会議の各座長が集まって協議した結果、9年間のとりまとめに関する取り組みは急いでやるのではなく、まずは9年間を振り返って、何ができたか、やろうとしてできなかったことはないかということ整理してはどうかという方向性になった。（内田）

○この懇談会に参加して、川の事業など川のことを色々勉強することができた。できた、できなかったという話もあるが、私はこの懇談会で参加して学んだことを自分の活動に活かすことができている。（伊奈）

○小河川の工事や維持管理がこれまでは役所がやってやるというスタンスであったかもしれないが、今は市民や専門家の意見を聞きながら取り組んでいくという方向性になっている。その流れ中で、この懇談会は立場を確立してきた面はある。まとめの中で、自分たちが学んだことや気持ちを入れていくのもよいのではない。（小澤）

○今、川はどういう状態か、今やっている工事の目的は、というのを学ぶことができて良かったと思っている。この懇談会に参加して我々市民の意見が行政に通じるようになってきたと感じている。（高橋）

○この懇談会で評価すべきことは、河川を管轄する国の事務所が責任を持ってない部分である県管理区間、山、海という場を取り扱っている面である。本会は全国的にもどこにも見られない場となっている。特に川以外の部分で何が進んだかを整理して、評価することが大切である。（近藤）

○まとめるときは会の発足当時から携わってきた人も呼んで、当時の思いや意見をいれるほうがよい。（高橋）



今後の流域圏懇談会の予定



■第49回川部会 WG

日時：平成30年12月18日

内容：家下川モデル 上下流ウォーキング（予定）

※詳細日時はMLにて決定します。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本 調査係長 服部
指導員 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（vahagizawa@iinet.or.jp）までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H30 川部会編 vol. 4



発行日：平成 31 年 1 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 49 回川部会WGを開催しました！

12 月 18 日（火）に第 49 回川部会WGが開催されました。矢作川環境技術研究会 野田さんのご協力を得て、「家下川 ～ 歩いて観る、診る、体感するエコツアー～」を開催しました。また、視察後は 9 年間のとりまとめ作業として、これまでの取組に対して意見交換を行いました。

日 時：平成 30 年 12 月 18 日（火）14:00～17:30

現地視察：家下川（末野原～上郷）

会議場所：豊田市崇化館交流館

参加者：19 名（事務局含む）



◆主な活動内容

1.家下川エコツアー



■家下川の川岸を歩き、川の自然、風景を感じながら、川の魅力を知ることができました。また、三面張りのコンクリート護岸、ゴミの不法投棄など生活圏内を流れる河川としての問題点も見えました。



※参加者の感想

- 良くも悪くも愛知県の河川改修の典型形式を見ることができ、川と氾濫域、地形的、歴史的なつながりが立体的に理解できた。
- これまで見たことのない家下川の上流区間を見ることができて良かった。
- 今回のような少し歩くことを中心とした体験型の活動を多くした方が良いと思った。
- 川の状態を見ながら、色々な生物を見ることができてよかった。
- 河川内のごみが多かったことが残念であった。
- 予想以上に水量、水質があったことは良かったと思うが、三面張りの水路は生物にとって良くない環境である。

2.9 年間のまとめに関する意見交換



●出席者のみなさまに9年間の懇談会活動をふりかえって、できたこと、もう少しでできたこと、できなかったことを付箋に記載して、それぞれの思いを発表していただきました。

A：できたこと

- 矢作川本川の評価、ここは良くなってきた、ここは良くなってきたという視点が必要。(光岡)
- 川部会に気軽に参加できるようになってよかった。特に後半は山部会にも参加できるようになって、流域全体の視点で川の問題をとらえることができた。(野田)
- 色々な場所を見学し、勉強することができたのがよかったこと。(高橋)
- 矢作川流域がどのような特徴をもっているか勉強しており、水の流れと物質の流れと視点で流域全体を対象とした水質調査を実施することができた。(吉川)
- 河床変動のシミュレーションを自分でできるようになった。(山本)
- 愛知県と豊田市に多自然型川づくりを導入して約30年経過した。その間、色々な情報の蓄積がある。その成果の一つについて、山部会で取り組んでいる事例集で紹介することができた。(近藤)
- 9年間の途中、漁協関係者の方が来られなくなった時期があったが、ここ数年は組合長が参加してもらえるようになるなど、漁協が協力的な関係で会を運営することができた。(内田)

B：もう少しでできたこと

- 矢作川の下流の方で流量が減少することについて、関係団体と話し合いをしたかった。(吉川)
- 市民団体や個人の参加が少なくなってきた。規約が問題ではないか。矢作川流域内に住んでいる、働いている人という条件がある。幅を広げる必要があると思う。(山本)
- 愛知県、中部電力がもう少し議論の場に加わってほしかった。(内田)
- 竹の再利用が話題となっている。愛護会が整備活動している。何か活かせるもの、整備だけでなく発展的に何かあればよいと考えている。(近藤)
- 観光協会とタイアップして矢作川のことをもっと知ってもらう取り組みを実施してほしい。(吉川)

C：できなかったこと

- 矢作川には色々な支川が入っているが、その評価が一切できていない。評価の必要がある。地先の関係、色々な団体の活動の紹介があったが、詳しくは見ることができていない。その活動の内容の評価もしていきたい。(光岡)
- 阿摺ダム下流で矢作川研究所がアユの環境改善実験を2年間行ってきて、何か改善策が見つかるかと期待していたが、結果が出てこなかった。(加藤)
- 山川海が各々で情報を集めているので、これらを集約するデータベースの構築ができていない。(吉川)
- 色々な行政がある中で、河川管理の見える化をしたかったができなかった。(山本)



今後の流域圏懇談会の予定



■平成30年度 川のまとめの会

※詳細日時はMLにて決定します。

日時：平成31年1月25日 午後

内容：1) これまでの活動成果と課題について 2) 来年度の活動計画について



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本 調査係長 服部
指導員 宇野



TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H30 海部会編 vol. 1



発行日：平成 30 年 9 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 37 回海部会 WG を開催しました！

7 月 30 日（月）に第 37 回海部会WGを開催しました。
今回の WG では、三河湾のアサリ資源の減少と海の環境をテーマとして、吉田海岸のアサリ漁場の現状をみるとともに、豊かな海に回復するために何が求められているのか、意見交換を行いました。

日 時：H30 年 7 月 30 日（水） 13:30～16:30

場 所：西尾市吉良支所 会議室

参加者：20 名（事務局含む）



◆主な活動内容

1：吉田海岸のアサリ漁場の現地視察 吉田漁協石川組合長からの話題提供



- 吉田漁協のアサリ漁場となる一色干潟は日本の三大干潟の一つであり、3～4年前まではアサリ全国一位の漁獲量があり、愛知県の70～80%を占めていました。
- しかしながら、現在はほとんどアサリの漁獲がなく、昨年は六畳干潟の稚貝を放流したが全く効果がありませんでした。
- 潮干狩りにこられる人も以前は制限である4kgを大幅に超えるくらいのアサリを持って帰ることができましたが、今はほとんど獲ることができません。
- その原因が特定できないままきていましたが、近年の愛知県水産試験場の調査結果から何が影響しているのか、わかりつつあります。
- この干潟の中でも所々にアサリの生息する場所がありますが、なぜ、そこに稚貝が着底して成長しているかは不明です。
- また、この近辺では今まで生息していなかったハマグリが自生するようになってきており、それが海の環境の変化の表れであると思います。アサリが好む環境とハマグリが好む環境は異なります。
- 昨年からはハマグリの子苗をやっていますが、生産に結び付くには長い年月が必要であると感じています。



2：愛知県水産試験場の調査結果の概要説明 石田会員からの話題提供



- なぜ、アサリが急激に減少したか・・・色々な検討が進められている中で栄養塩が不足しつつあるという考えにたどり着きました。
- 様々な環境条件が連動して、海の環境が形成されている中で、特に陸域からの栄養塩の供給が重要であります。
- 色々な変化がある中で、唯一直線的に変化しているのが、陸域からの栄養塩の排水制限であり、それと同時に水産資源が直線的に減少しているという傾向があります。
- 伊勢湾、三河湾に流入する陸域から発生源推測結果によると、最近のリンの発生量は1980年頃の発生量が1/2程度であり、チッ素については3～4割程度との報告があります。
- 陸域からの排水規制をやっても貧酸素は解消されていません。
- 総排水量規制は貧酸素水の環境改善に効果がないということがわかってきました。
- 干潟域で鳥がなくなったという話であるが、ゴカイや貝など餌生物が減少したのが要因と言われています。
- 汐川干潟でも同じ現象が起きている。過去はドロドロした干潟であったが、今は固くてきれいな干潟にかわってしまっています。



3：話し合い



- 10月くらいに今の状況からどのようにアサリの生息状況が変化するかを再度見る機会を設けるのも良い。8月、9月で貧酸素水塊によって何らかの影響があるので、その変化も見てみたい。(石川)
- 今、三河湾事務所が色々とアセス関係でアサリの調査をしているので、その状況報告を10月あたりに実施してもらうことは可能か？(青木)
- 港湾事務所では六畳干潟を中心に平成27年から3年かけて調査を実施してきた。今、とりまとめ中であり、現時点では工程が未定である。(東方)
- 10月に現地をみると同時に、港湾事務所の調査結果の報告があるとよい(青木)
- 有明海で改良素材を置いて、アサリが増えたという研究事例があるので、それを東幡豆で実践したい。それを観察するというのもよい。東幡豆の干潟は環境的にも条件がよいと思う。(井上)
- 吉田漁協の組合長は、これまでも様々な調査を実践されており、経験、知識も豊富であることから、もう1度、吉田海岸の現地を見て、組合長の話聞く場を設けたい。(石田)
- 今のままでは三河湾から漁業がなくなってしまう恐れがある(石川)
- 昔30年位前、西三河でノリ漁業者は550件、今は19件であり、あと数年でノリ漁業者はゼロになる恐れがある。多くの人はアサリ漁業に転換した。(天野)
- トリガイやバカガイが成長しているのだから、全く餌がないわけではないように思う。アサリの減少要因がわかれば、その対策を施すことができる。(天野)
- アサリが完全に成熟していないのに産卵する、未熟児が多くなるという悪循環ができる。ウミグモが入っている個体は栄養が半分消費しているので、赤潮や冬場の餌不足で斃死しやすくなる。(石田)
- 4月にアサリの中にカイヤドリグモが入っているのを確認した。カイヤドリウミグモは昔から三河湾にいたのか？どこからか移入したのか？ また、三番瀬にハマグリに似た外来種のホンビノスが非常に多いが、こういうものに寄生してやってきたものではないか？(天野)
- 千葉県で見つかったのが初めてであり、種としては有明海などに昔からいたという説である。今、猛威をふるっているのは海外から移入したものと思われる。ホンビノスは東京湾では自然に定着した可能性があり、生態的に適した環境であったようで、急激に増加した。水温がやや低いところに適応しており、三河湾、伊勢湾には少ない。(石田)
- アサリの代用品としては、ハマグリがよいのではないかとと思う。伊勢湾では最近自然繁殖に近づきつつある。元々伊勢湾、三河湾で大量に漁獲されていた種でもある。(石田)
- 三河湾でハマグリが増えているということは、ハマグリが生息に適した環境に変わりつつあるのではないか。干潟がきれいになっていることが関係していると思う。(石川)



今後のスケジュール（予定）

海の地域部会は、10月を予定しています。詳細は別途開催案内でお知らせいたします。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H30 海部会編 vol. 2



発行日：平成 30 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 38 回海部会 WG を開催しました！

10 月 24 日（水）に第 38 回海部会 WG を開催しました。

今回は、吉田漁業協同組合の石川組合長のご指導のもと、吉田海岸を参加者で踏査し、アサリの現状について学びました。その後、室内でアサリの捕獲量や生息環境の変化について、意見交換を行いました。



日時：H30 年 10 月 24 日（水） 11:30～15:00
場所：吉田海岸・西尾市役所吉良支所 第 1 会議室
参加人数：19 名（事務局を含む）

◆主な活動内容

1. アサリの減少と生息環境の変化について 吉田漁業協同組合 石川組合長からの話題提供



- 愛知県水産試験場が公表したアサリの漁獲量（平成18年度以降）の推移をみると、知多では平成28年以降ゼロになりました。そして、最も多く獲れていた西三河でも平成29年時点で88トンにまで落ち込みました。
- 7月に放流した稚貝は11月までは順調に育っていましたが、12月には10分の1に減耗しました。10月に放流した稚貝については、7月の稚貝よりさらに早く減耗しました。水産試験場の調査では、10mmに満たない小さなアサリが、産卵するという事実がわかりました。つまり、産卵後の食べ物が海にないことが予想されます。
- ノリに関する栄養塩調査でリンの値が調べられており、平成25年くらいから右肩下がりとなっています。これは、矢作川浄化センターのリンの処理量（環境基準1ppmのところ0.2、0.3 ppm程度の放出）に反比例して減少していることがわかりました。我々は現在の放出量の2倍～3倍の放出量を試験的に実施していただくようお願いし、昨年11月から3月まで放出してもらいました。その結果、感覚的ではありますが光沢や触感の良好なノリが生産できるようになったと感じました。
- 私の地域では、西の風は悪魔の風、南の風は極楽の風といって風向きによる湧昇流によって貧酸素塊の発生が左右されます。今年は複数の台風がこの地域を通過したため、波浪によるかく乱が生じ貧酸素状態が解消しました。
- 今年は長雨や台風の影響により、河川水による低比重の海水が沿岸部にたまりました。その結果、近年にないサイズの貝が三河湾のあちらこちらで確認されています。私は着底稚貝の有無は比重の違いによるものと考えています。
- ぶら下げた籠にはケイ藻が付いており、そこでは貝は生き続けることがわかっています。ケイ藻が貝の生育に必要なことは明らかだと思われるため、今後はその重要性についてデータをとってみたいと考えています。
- アサリの天敵であるカイヤドリウミグモについて、貝の中に生息する個体を経年的に記録しました。その結果、海水温の積算温度が1800℃で1世代のサイクルとなることがわかりました。寄生する貝の種類については、移動性のマテガイ、シオフキガイ、バカガイにも寄生しますが、アサリに匹敵する被害は確認されませんでした。

2. 海部会の9年間のまとめについて



矢作川流域圏懇談会は、平成22年に設立され3年1サイクルで活動を行ってきました。今年は、3サイクル9年という節目の年を迎えました。まとめを考える中で、辻本全体会議座長より、9年間で「できたこと」「できなかったこと」「もう少しでできたこと」を10年目にまとめながら、引き続きいろいろな活動を行ってはどうかという助言をいただきました。海部会では、現在は「アサリ」を中心に議論を行っていますが、過去には「ごみ・流木」の問題を議論してきた経緯があります。これらすべてを総括できたらと考えています。

3. これまでの懇談会の進捗報告



【第1回合同部会】

8月24日、岡崎市で合同部会が実施されました。矢作川流域に関する科学的な研究成果、特に矢作川の水質について情報共有しました。矢作川の長期的な変化や上下流の問題・課題を改めて認識することができました。

【第1回市民部会】

8月30日、豊田市で市民部会が実施されました。これまで、市民部会として「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3つのテーマについて議論されましたが、上下流の優れた点や問題点について、形に残してはどうかという意見が出ました。そのため、次回の第2回市民部会では、ワークショップ形式で意見交換を行いたいと考えています。

【矢作川感謝祭2018】

9月2日、豊田市千石公園において矢作川感謝祭が行われました。今回は流域4つの森林組合（恵那・根羽・豊田・岡崎）による出展に加え、東幡豆漁協石川組合長による海の生き物の展示が行われ、大いに盛り上がりしました。

4. 話し合い



◆アサリの減少と生息環境の変化について

- ・長期間にわたり目的を持ってデータを取り続けているのは素晴らしい。研究者として尊敬する。(青木)
- ・水産試験場と肩を並べるような調査を自前で行う組合長はいないと思う。少なくとも自分にはできない。(石川金)
- ・カイヤドリウミグモの計測は職員総出で行う。生息個体を水槽で飼育し、ハゼなどの魚類を入れたりしているが、これらを好んで食べる天敵は見つかっていない。(石川甚)
- ・カイヤドリウミグモは外来種か。(高橋)
- あまり研究をしている人はいないが、種として新しいものではない。しかし、昔からいる種がこのような爆発的に寄生するとは考えにくく、種としては同じであっても、他の地域で生育していたものが、何らかの原因で移入し、爆発的に増えたと考えるのが自然である。(石田)
- ・カイヤドリウミグモはどのくらいの大きさか。(青木)
- 足を広げると 1.5cm くらいになる。ただ、貝の中に寄生している時は、足を折りたたんでおり 3~4 mm 程度となっている。そのため、一般の人には認識されない。特に色のついた料理ではわからないと思う。(石川甚)
- ・カイヤドリウミグモの個体数の変動は、どのようなことが要因として考えられるか。(青木)
- アサリに秋に寄生しても、冬に寄生しても成体として貝から独立するのは 4 月であり、いつ寄生しても長い冬の間に大きさがそろってくる。これまでの調査で、カイヤドリウミグモは夏の暑さに弱いのではと感じたのだが、東京湾の事例では、孵化した個体が水温 20℃の条件で 50~60 日(2 ヶ月程度)生き続けることがわかった。このことは、我々が 7 月に放流する稚貝にも寄生可能であることを示していた。また、日本有数の広大な干潟域は、カイヤドリウミグモの生息適地であることに加え、移動能力の低いアサリが高密度に分布したことで被害が拡大しているのではないかと考えている。(石川甚)
- ・カイヤドリウミグモとアサリの共存は可能か。(青木)
- 寄生されたアサリの死骸による水質の汚染が、個体数を激減させる可能性はあるが、現段階でカイヤドリウミグモによって全滅ということはあり得ないと考えている。最も大きな要因は海の環境だと考えている。籠の中に小石を入れて稚貝を育てると、良く育つことがわかった。西幡豆においても、小石が投入された海岸では、良好な生育を示した。(石川甚)
- ・今年は海水の比重が低い状況が続いているので、アサリの生育が今のところ良好であるという解釈で良いか。(野田)
- 海水の比重が下がるというのは、河川水の影響が広がっているということ。河川の影響が広がるということは、河川からの栄養が直接提供されることを意味しており、河川水が広がって塩分が低下する環境の方が、アサリの着底にとって有利だろうと考えている。(石川甚)
- ・三河湾ではアサリも魚も不調である。組合が存続するかどうかは来年次第だと思う。(石川金)

◆海部会の9年間のまとめについて

- ・海部会では、はじめは富栄養化、貧酸素問題を扱っていたが、今では貧栄養化の問題を扱うなど 180 度変わってしまった。この間の時間的な流れ、海の変化、海の見方の変化、認識の変化などをまとめてみたら面白いのではないかなと思う。何となく漠然と WG をこなしてきた感じではあるが、継続して実施してきたことに意味があったと感じる。(青木)
- ・懇談会員あるいは市民に現状を知ってもらう必要がある。我々だけが知っていても効果的な解決には結びつかない。(石川金)
- ・矢作川浄化センターのリンの放出については、漁連が知事に直談判して、急きょ放出が具体化された。ただ、放出量は今までの 3 倍、アサリ 3 万トンぐらいの必要量が放出されたと言われても我々は理解できない。もっと、具体的な解決策を講じてもらいたい。(石川甚)
- 伊勢湾再生海域検討会においても議論されていて、栄養の不足分についても視野に入れたシミュレーションも行おうとしているようだ。そこでは鈴木副座長も委員として参加されているので、強く訴えられているものと思われる。(青木)



今後のスケジュール(予定)

次の第 39 回海部会 WG は、平成 30 年 12 月 19 日(水) 西尾市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H30 海部会編 vol. 3



発行日：平成 31 年 1 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 39 回海部会 WG を開催しました！

12 月 19 日（水）に第 39 回海部会 WG を開催しました。

今回も吉田漁業組合の石川組合長を交え、三河湾のアサリ漁の現状と海の貧栄養化問題について意見交換を行いました。また、井上委員からアサリの餌となるケイ素の問題について話題提供がありました。



日 時：H30 年 12 月 19 日（水） 15:00～17:30

場 所：西尾市役所会議棟 第 4 会議室

参加人数：17 名（事務局を含む）

◆主な活動内容

1. 三河湾のアサリ減少と海の環境についての意見交換

○前回のWGでみなさんが視察した干潟で今日の朝、アサリを採集してきた。今日現在までは無事に成長している。ここ数年は一度放流した後は、まるっきりいなくなることが多かった。久々にアサリを採集することができたので、ここに持ってきた。年越し後に調査にいくと、昨年、一昨年までは全くいなくなっている状態であったので、今年もどうなるかはわからない。（石川甚）

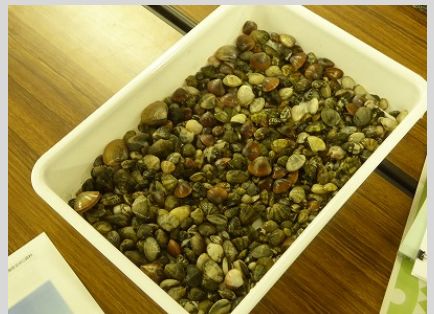
○一般論として、通常、夏型の海から冬型の海へ移行するとき、深場からの栄養供給と秋雨による陸域からの負荷供給があり、植物プランクトンのピーク期を迎える。この時期、秋の産卵後に疲弊したアサリがプランクトンを摂食して、肥満度が回復して、最低水温期に肥満度 11 を下回らなければ生残し、春のプランクトンのピーク期を迎えて急激に成長していく。秋の植物プランクトンのピーク期がないと痩せた状態のまま冬を迎え、減耗する。昨年、矢作川浄化センターの管理運転が実施されたが、これによって海に供給される窒素、リンの量が大幅に増加している。特に今年の冬を越せるどうかは 1 か月前の状態が重要である。自動観測の結果を見る限り、去年よりはいいのではという見解である。ただ、冬に温度が高いと基礎代謝が高まり、餌量が増えたとしてもそれを消費してしまう心配もあるが、劇的に回復する可能性もあると思う。（鈴木）

○海苔の品質は海水のリンの濃度で大きく変わってくる。矢作川の浄化センターの放流水がどのように三河湾に流入しているか、私なりに調べた結果、季節風が西北西になる前は、南知多へ相当量が流れたことから大井・美浜産の品質が良くなった。季節風が西北西になると吉田の矢作古川近辺で回ってしまい、衣崎産の海苔の品質が良くなった。各組合の海苔を一樣に比較すると、品質の違いがよくわかる。（石川甚）

○管理運転で成果があるという話で広がっていることから、市町の公共下水道もそれにならう方向で動いており、田原市、常滑市、蒲郡市などでは窒素、リンの放流濃度を上げる取り組みが実施されている。県漁連が管理運転の要望をあげて、県が実施をしたということは大きな原動力になっていると考えている。水質が悪化するという話もあるが、放流基準を守って出す窒素、リンの量が海の環境を悪化させることはないと考えている。今年の放流稚貝が生残しているか、どこにいるかということを漁業者がデータを独自に集めていただくと、一般の方々も理解されると思う。（鈴木）

○今年は目に見えた赤潮はなかった。ありとあらゆる小川から流入している負荷量が抑制されてしまっている。平成 25 年以降、観測を続けているが、夏の酸素の溶存量をみても、非常にきれいになってきた海だと感じている。（石川甚）

○播磨灘のコウナゴの漁獲量のデータと透明度のデータを比較すると、透明度が高いときは不漁で肥満度も低い。魚は環境変化に鋭敏であり、明らかである。仮眠に入るまでの餌の量が十分であれば、仮眠時に水温が高くても、十分に次の再生産に寄与する。



瀬戸内の関係組織の中でも、瀬戸内全体の下水道の総合計画においても、海の状況に応じた運転を適宜実施すると明文化されている。三河湾も同じような方向で動く必要がある。

(鈴木)

○排水の規制は法律に基づき国が基本方針を定めており、それに従って自治体が計画を作っている。現在瀬戸内海での状況が問題となっており、瀬戸内海ではフレキシブルな考えで、湾灘、季節ごとなどで基準値が決められているが、三河湾はそういう状況ではない。(高橋)

○海の環境が劣化しているスピードについていっていない。環境の変化は緩やかに起こるといふ先入観がある。アサリの生死の成長モデルは基準値を超えると全滅になる。今回の瀬戸内、三河湾の件で環境省も前向きにとらえるようになってきたと思う。干潟や藻場の再生という考え方も計画に取り入れられてきた。「伊勢・三河湾ではこうしたい」というものを愛知県が率先して発信し、行動すべきである。(鈴木)

○本当は漁師が立ち上がる必要があるが、漁師の高齢化がネックである。三河湾はアサリがいたからきれいであった。アサリがいなくなれば海はもっと汚れる。そうすると、陸から流れてくる水をもっときれいにしなければならないということになってしまう。これが自然の流れである。(石川金)



2. 話題提供：三河湾で不漁となったアサリの餌となるケイ藻のいま | 井上祥一郎さんからの話題提供

アサリを含む海産二枚貝の多くは、海水中から餌料生物や浮遊懸濁物質をエラにより濾別して摂餌を行っています。特に、アサリの成長に寄与する餌料生物はケイ藻です。ケイ藻に関する基本的な知識、矢作川流域においてどのような変化が起きていたかを整理し、今後期待される技術的対応について話題提供していただきました。ここでは、アサリの衣・食・住問題としてとらえて整理しています。

◆衣 | 水質について

・溶存酸素 3mg/ℓ以上 飽和濃度以下 ・硫化水素のない好気的環境

◆食 | 餌について

①森林域：健全な森づくりは、ケイ酸が溶け込んだ湧水をはぐくむ。その結果、アサリにとって有益な餌料となるケイ藻が育つ。ケイ酸が地下水に溶け込むことが重要であることから、今以上に浸透能が向上できればよい。人工林の適切な手入れが必要と一般的には言われているが、研究面での結論が出ているわけではない。

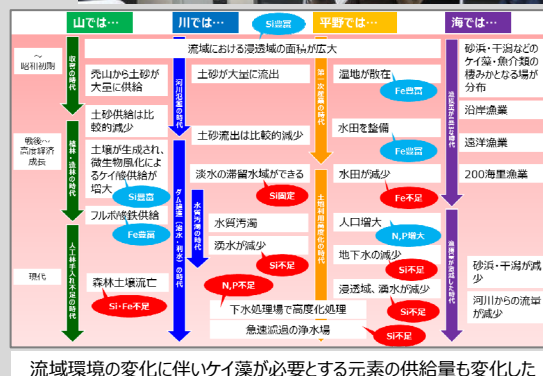
②ダム の湛水域：滞留する水域があるとそこでケイ藻が多く生育することとなり、Siが収奪され、海に到達する前に減少してしまう。適切なダム配置が重要となるが、治水・利水状況を勘案して決めるべき課題が多い。

③河川を流下する水量：かつてより流量が減少していることが指摘されている。豪雨のあとに海の漁獲量が上がっていることから、三河湾の湾口深場に滞留する栄養分(ケイ藻の必須元素)がエスチュアリー循環によって引き上げられるしくみを作ることができればよい。

④湿地・水田：フルボ酸鉄は植物プランクトン(ケイ藻など)の光合成に必須の物質であるが、水田(疑似湿地)からも供給される。フルボ酸鉄の供給源である、これらの地域の復元により、供給量を増大することができる可能性がある。

◆住 | 生息環境について

・適度な砂泥質と干潟



流域環境の変化に伴いケイ藻が必要とする元素の供給量も変化した

3. 海部会の9年間のまとめについて

○参加者のみなさまに9年間の懇談会活動をふりかえって「できたこと」「できなかったこと」「もう少しでできたこと」を付箋に書き込んでもらいました

○次回のまとめの会では、頂いた意見をもとに、これまでの活動について総括したいと考えています。

今後の流域圏懇談会の予定

■平成30年度 海のまとめの会 (日時)平成31年1月31日(水) 午後

内容：1)これまでの活動成果と課題について 2)来年度の活動計画について

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H30 合同部会 vol. 1



発行日：平成 30 年 9 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 1 回合同部会を開催しました！

山部会では、山川海の相互理解を深めるために、研究データに基づく議論をしていこうという前向きな意見がでました。これをうけた形で合同部会を開催する運びとなりました。

議論の内容は、主に矢作川の水質について、科学的に研究をされている方々にご講演をいただき、その研究結果をもとに山・川（里）・海の“民の知恵”の意見交換をしようというものです。

【日 程】H30 年 8 月 24 日（金）～25 日（土）

【場 所】合同部会：岡崎市宮崎学区市民ホーム

エクスカージョン：岡崎市乙川・伊賀川

【参加人数】合同部会 45 名、エクスカージョン 24 名（事務局を含む）



◆講演内容について

アサリはなぜ減少したのか？

『アサリの漁獲量減少と海の栄養塩に関する研究事例』

（名城大学大学院総合学術研究科 特任教授 鈴木輝明氏）

近年のアサリの漁獲量の減少原因は、矢作川流域下水道の稼働により、リン酸が過剰に除去され、餌である植物プランクトンが不足したためと考えられる。三河湾では過去に貧酸素水塊が問題となり、窒素とリン酸の排出規制が始まったが、水の過剰な浄化によって、海の生物に影響を与えている可能性が示された。

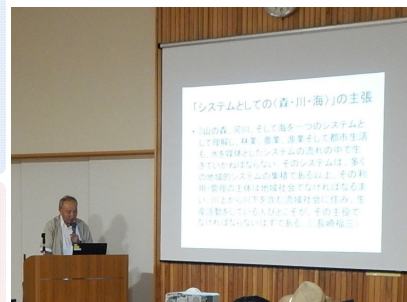


シジミ、アサリを増やす森と里からの湧水

『農・林・水産部門技術士の継続研鑽から』

（伊勢・三河湾流域ネットワーク 共同代表世話人 井上祥一郎氏）

健全な森づくりは、ケイ酸が溶け込んだ湧水をはぐくむ。その結果、アサリにとって有益な餌料となるケイ藻が育つ。一方、フルボ酸鉄は植物プランクトン（ケイ藻など）の光合成に必須の物質であるが、水田（疑似湿地）からも供給される。森・里の恵みであるフルボ酸鉄・シリカについて、今後も研究を続けたいと考えている。



矢作川本川の水質と流域構造を知ろう！

『電気伝導率からみた矢作川本川の水質実態と流域構造の特徴』

（大同大学大学院 吉川慎平氏）

本調査は、流域の本川と支川の175箇所で行った。その結果、中流域では5～8mS/m、河口に近い西尾市においても10mS/mであり、平均的な河川水の値11mS/mと比べて低いことがわかった。要因として、流域の地質が花崗岩である、流域下水道の整備、土地利用の影響が及んでいないものと考えられる。



矢作川中流域の水質を知ろう！

『矢作川中流域の水質 水質の長期変動と他河川との比較』

（豊田市矢作川研究所 研究員 白金晶子氏の研究成果 事務局報告）

矢作川中流域において、経年的な調査を行った結果、以下の結果を得た。

（1）栄養塩類は減少傾向を示した。（2）矢作川上流から下流に向け、栄養塩類は増加していた。（3）流量が少ない時、植物プランクトンはダム湖で増加し、下流に向けて増加していた。（4）明治用水頭首工周辺で取水により、下流の流量が減少、栄養塩、懸濁物質が増加し、巴川の合流で水が入れ替わっていた。



森林が変化すると水質はどう変化する？

『植生遷移に伴う水質の変化 —東大演習林における事例—』

（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 蔵治光一郎氏）

森林からの水質は、ほとんどの項目で良好であるが、色度だけが上限に達していた。これは、色素の原因物質フミン酸やフルボ酸などの有機酸が、保持できる限界を超えて流れ出しているものと推察される。これは、森林の富栄養化の兆しを示すものであり、未来において、山からの水が必ずしも良好な水質とは言えない可能性を示唆するものであった。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

《アサリの漁獲量減少と海の栄養塩に関する研究事例に対する質疑応答》

- ・いくつか考えられる栄養塩類のうち、リンだけを対象としているのはなぜか。(蔵治)
 - ▶ 調査の結果、特に夏場においてリンが制限因子になっていること。また、矢作川浄化センターの排出規制が、窒素とリンを比べると、リンの方が圧倒的に制御しやすいためである。(鈴木)
- ・貧酸素塊の抑制と餌場の確保の両面から、今後どのようにリン酸を取り扱うべきか教えてほしい。(今村)
 - ▶ リン酸の削減は、確かに貧酸素塊の抑制につながる。ただし、それに伴ってイワシやアサリ等の魚介類が減少すると、それ自体は貧酸素塊を拡大する要因になってしまう。だから、生物資源を維持できる許容量を確保したうえで、排出規制を考える必要がある。(鈴木)

《農・林・水産部門技術士の継続研鑽からに対する質疑》

- ・ケイ素というのは無機物質で、岩盤の鉱物から流れ出す物質であり、流域がはげ山であった時代には大量のケイ素が流出したと考えられる。流出量の大小は、森林管理の良し悪しで決まるものではないと考えられる。(蔵治)
- ・陸域由来のケイ酸態ケイ素は、三河湾の海中にも結構含まれるため、それが生物種の減少要因とはならない。(鈴木)

《電気伝導率からみた矢作川本川の水質実態と流域構造の特徴に対する質疑応答》

- ・電気伝導率を測定する目的、その結果が何に活用できるのか。(洲崎)
 - ▶ 矢作川の電気伝導率は低いといわれてきたが、事態はどうなのかを確認したかった。また、活用については生物学的な関係機関に活用していただきたいと考えている。(吉川)
- ・電気伝導率の値には、主にどんな物質が関わっているのか。また、土地利用とか地質による影響を確認したか。(清水)
 - ▶ 物質については分析をしていないためわからないが、河川水を採取しているので、今後調べたい。また、土地利用と地質は関わりが深いものと考えている。(吉川)

《矢作川中流域の水質 水質の長期変動と他河川との比較に対する質疑応答》

- ・ケイ素はダムで消費されていると考えられるが、なぜ河川水の分析項目にケイ素が含まれていないのか。(山本)
 - ▶ 矢作川研究所としては、水質においてケイ素はそれほど重要ではないと考えている。(洲崎)

《植生遷移に伴う水質の変化 一東大演習林における事例一に対する質疑応答》

- ・昨今、森林土壌が注目されているが、森林整備の中でフルボ酸、フミン酸の役割はどう評価されるのか。(今村)
 - ▶ それらが増加することは、土壌が形成されつつあることを意味している。水質の面では色度が上昇することは好ましくないが、それは人からみた評価であり、生態系としては望ましいことだと考えられる。(蔵治)
- ・植生遷移が水質に及ぼす影響を説明いただいたが、動物への影響は調査されているのか。(野田)
 - ▶ 動物では脊椎動物、鳥類、昆虫の3項目で調査が行われてきた。脊椎動物では、木の実の生産量と個体数の関係、鳥類では繁殖時期についてモニタリングを行っている。(蔵治)

◆総評

- ・人間は生活の便利さと引き換えに自然を壊してきた。生き物に目を向けることで、自然環境を変えられると思う。(石川)
- ・川部会では、これまで流量の確保、土砂移動、川の形状などを優先し、水質について議論を重ねてこなかった。今日の合同部会で、水質の重要性について再認識した。今後は、川部会でも取り上げたいと考えている。(内田)
- ・一言で「水」といっても、山川海それぞれの見方でずいぶん異なる。何かを立てれば、何かが犠牲になることも今日の議論でよくわかった。(鷺見)
- ・今日の報告には、流域下水道のデータがなかった。排出の規制量がわかれば、電気伝導率、中流域の水質の話、アサリの減少と海の栄養塩類の話につながった気がする。また、雨が降った時の栄養塩類の排出については、岡崎市でデータを取っている。どこかの機会で報告できたらと考えている。(蜂須賀)
- ・今日のような議論ができれば、水掛け論にならずに済む。とても有意義な時間を過ごすことができた。(洲崎)

◆エクスカージョン

① 乙川

《岡崎市のかわまちづくり》

岡崎市乙川リバーフロント推進課の香村課長、浅井副課長より、QURUWA戦略(乙川と市街地の発展をめざした公民連携プロジェクト)をご紹介いただいた。



② 伊賀川

《愛知県多自然川づくり》

愛知県河川課の川瀬主任主査より、平成20年8月豪雨を教訓とした多自然川づくりについて、実績と効果(特に河川構造と生物相への影響)をご紹介いただいた。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H30 市民部会編 vol.1



発行日：平成 30 年 10 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 1 回市民部会を開催しました！

より市民目線での活動を活発にするため、今年度より市民会議から市民部会という名称でリニューアルいたしました。今回の WG では、これまでの流域連携テーマやイベントの活動状況、今後の活動方針についての意見交換を行いました。

日 時：平成 30 年 8 月 30 日（木）14:00～16:00
会議場所：豊田市崇化館交流館 4 階 第 2 会議室
参加者：16 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 昨年度までの流域連携テーマとイベントの実施状況・今年度の連携イベント日程について

流域連携テーマ①：ごみ・流木

●昨年度は奈佐の浜プロジェクト委員会が開催した「藤前干潟エクスカージョン」に参加しました。この活動では藤前干潟での清掃活動や名古屋市のごみ焼却施設の見学を行い、ごみを通じて地域の環境を学びました。愛知県主催の「海ごみ減らそうフォーラム」では、猿渡川・家下川でのワークショップを通してごみの実態を確認するとともに、ごみの削減方法についてグループ討議を行いました。

流域連携テーマ③：木づかい

●木づかいライブ・スギダラキャラバンにおいて、流域内外で約 40 回（平成 29 年度実績）におよぶ木づかい推進を行いました。昨年度の矢作川感謝祭では、林業に関する歌の披露や高性能林業機械の実演、動く木のおもちゃの展示を行い、地域住民の方に親しまれました。さらに、流域ものさしの活用事例が山部会 WG 等で報告されました。

流域連携テーマ②：土砂

●川部会や海部会の WG で阿摺ダムにおけるアユの生息環境改善実験の視察を行い、河床のアーマーコート化の改善や生物相の回復状況について意見交換を行いました。また、豊橋河川事務所が取り組んでいる総合土砂管理の現状と、今後の方針について意見交換を行いました。総合土砂管理は、土砂が発生する上流山地から土砂が流出する河口部や海岸までの流域全体の問題を解決していくことを目的としています。今後は総合土砂管理計画の策定に向けて、10 個の検討項目の解決を目指しています。この中で、矢作ダムから土砂を排出するための方法の一つとして考案されている土砂バイパスについて注目が集まりました。

流域連携イベント

●矢作川流域圏事例集交流会	平成 30 年 4 月 15 日
●矢作川感謝祭	平成 30 年 9 月 1-2 日
●三河湾大感謝祭	平成 30 年 10 月 28 日 予定



2. 市民部会の活動のあり方について

山・川・海の部会員が一堂に会し、矢作川流域で生活する住民の視点から、多様な話し合いが進められました。その中で、地域住民が矢作川の情報に触れる機会が少ないことが課題として抽出されました。このことから、情報を発信できる場を市民部会で作成したいという意見があげられました。大きなイベントや体験学習、SNS を用いるなど、様々な手段が提案され、情報の発信方法の検討は今後の活動の中心になると考えられます。

次回の市民部会では、良い面と悪い面を併記した形で矢作川流域圏の現状を表現することを目的としたワークショップ形式での部会の開催を予定しています。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●昨年度までの流域連携テーマとイベントの実施状況・今年度の連携イベント日程について

- ・草を刈り、竹を伐っていると、一般の人がごみを捨てなくなるため、河川沿いのごみは減ってきている。(伊奈)
- ・流木は切り捨て間伐で捨てられた木もしくは土砂崩れによる倒木、ごみは人間の出したものが大きな構成要素であると考えられ、何が悪影響を与えているのかを明らかにして議論を進める必要がある。(高橋)
- ・ごみが大量に出ている市域の住民にごみの問題を知ってもらうイベントを開催する意欲を示す必要がある。(山本孝)
- ・イベントだけではなく、草刈りや竹の間伐などの体験を通してごみの問題を認識できる場も必要である。(沖)
- ・土砂バイパスで大きな石を流すための工夫などは何か考えているのか。(井上)
 - ▶ 土砂バイパスでは、5cm 程度の細かい土砂しか流れないため、それより大きなものは掘削して処理しようと考えている。具体的な処理方法は効率性を考慮しつつ検討していく予定である。(神本)
- ・ダム湖底に有機物が溜まっていると考えられるが、調査は進んでいるのか。(井上)
 - ▶ 過去に国土交通省が矢作ダムの湖底のボーリングを行い、堆積物の粒形や有機物の量を調査していた。定性的に有機物が多いという記載があったと思う。(内田)
- ・「総合土砂管理計画の技術的課題に対する検討委員会」におけるこれまでの議論の経過は公表しているのか。(浅田)
 - ▶ 豊橋河川事務所が公表している。(神本)
- ・矢作ダムにたまった土砂を山地に捨てていると聞いているが、その土砂を海に運ぶことも検討してほしい。(高橋)
 - ▶ 治水や利水に影響を与えないことを大前提として、実験を重ねて様々な方向性を検討していきたい。(神本)
- ・土砂バイパスによって土砂を流す際、水量や流速を調整するのか。(松井)
 - ▶ 可能な限り自然な環境に近づけられるよう、効率的な方法を試行錯誤しながら検討していく予定である。(神本)
- ・自分たちの木を使ってほしいのであれば、自ら行動し、木を見る楽しさを広める活動が重要である。(今村)
- ・総合的な矢作川の再構築には、公共事業による大規模な河川整備だけではなく、竹の間伐体験やごみ捨てをやめることなど、地域住民による活動も必要ではないか。(浅田)
- ・流域圏懇談会に関わってきて良かったと思うことは、岡崎市の林務行政が微動だが動き始めたこと。流域圏懇談会の山部会の活動が大きな原動力になっていると思う。(沖)

●市民部会の活動のあり方について

- ・三部会での考え方の方向性が十分に確立されていない。3つの流域連携テーマを統合し、その目標を代表するような標語を設定して取り組むのがよいのではないか。(光岡)
- ・いろんな場所で様々な問題が生じており、それぞれ望みも違うため、全体として見つめるべき理想形を目指して活動すべきだと思う。(光岡)
- ・市民部会の活動として、行政から許可を得て、もしくは事業として公的資金を獲得し、土砂実験を行うことも検討すべきである。(山本孝)
- ・流域圏での生活に不便を感じていない住民は、流域圏の問題について自発的に考えようとはしない。それらの住民に問題を提起する場が必要である。(山本孝)
- ・今の市民は様々な問題を知らされないで生活している。矢作川流域では、そういった問題の原因を解明するために、地域住民と一緒に考えるためのベースを作る必要がある。そのために、地域住民に対して情報を発信できるツールを作りたい。(山本薫)
- ・流域圏で生活する住民は、生態系を大事にして、人間の衣食住や生きるためのエネルギーをどう確保していくかという課題を解決する必要がある。(山本薫)



●振り返り

よかったと思うこと：山川海が少しずつ連携する見通しができたこと。/流域連携の方法について少し進展があったこと。/自由に発言できていたこと。 **よくなかったと思うこと：**時間不足。 **今後取り組んでいきたい活動など：**情報発信。

今後の予定

■第2回市民部会

日時：平成30年10月23日(火) 14:00~17:00 豊田市崇化館交流館4階 第2会議室



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H30 市民部会編 vol. 2



発行日：平成 30 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第2回市民部会を開催しました！

昨年度までの市民会議から、より市民目線で自由に発言できる場をめざして市民部会という名称にリニューアルしました。今回の WG では、ワークショップ形式で流域の良い面、悪い面を流域マップに示し、今後の議論のための可視化を試みました。

日 時：平成 30 年 10 月 23 日（火）14:00～17:00
会議場所：豊田市崇化館交流館 4 階 第 2 会議室
参加者：16 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 最近の懇談会の進捗報告

【第1回合同部会】8月24日

岡崎市で合同部会が実施されました。矢作川流域に関する科学的な研究成果、特に矢作川の水質について情報共有しました。矢作川の長期的な変化や上下流の問題・課題を改めて認識することができました。

【第1回市民部会】8月30日

豊田市で市民部会が実施されました。これまで、市民部会として「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3つのテーマについて議論されてきましたが、改めて上下流の優れた点や問題点について、形に残してはどうかという意見が出ました。そのため、次回の第2回市民部会では、ワークショップ形式で意見交換を行うことになりました。

【矢作川感謝祭2018】9月2日

豊田市千石公園において矢作川感謝祭が行われました。今回は流域4つの森林組合（恵那・根羽・豊田・岡崎）による出展に加え、東幡豆漁協石川組合長による海の生き物の展示が行われ、流域一体化を意識することができました。

【第5回三河湾大感謝祭】10月28日

蒲郡市民会館において三河湾大感謝祭が行われ、木のおもちゃの展示などにより、三河湾につながる上流域の山の情報を発信しました。

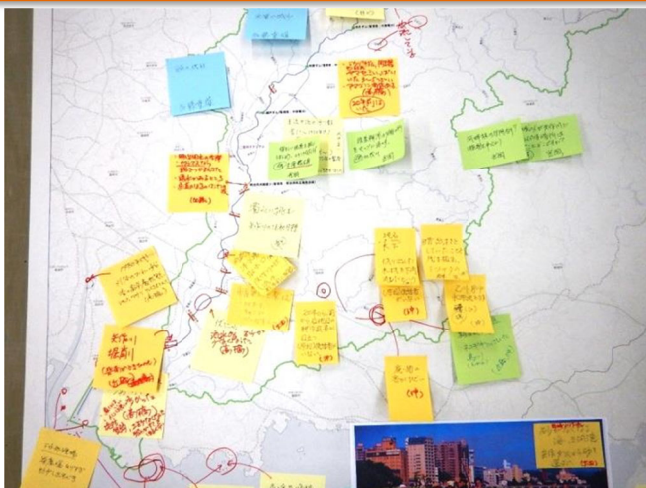
2. ワークショップ

前回の市民部会では山・川・海の部会員が一堂に会し、矢作川流域で生活する住民の視点から、多様な話し合いが進められました。その中で、地域住民が矢作川の情報に触れる機会が少ないことが課題として抽出され、情報を発信できる場を市民部会で作成したいという意見があげられました。大きなイベントや体験学習、SNS を用いるなど、さまざまな手段が提案され、情報の発信方法の検討は今後の活動の中心になると考えられます。

今回の市民部会では、ワークショップ形式で良い面と悪い面を併記した形で矢作川流域圏の現状をマップに示すことになりました。そして、出席者の思いを時間の許す限り語って、結果をとりまとめました。

3. まとめ ～市民部会が期待する流域圏のあり方について～

市民部会でも9年のまとめについて、これまでの市民部会（市民会議）で検討したことをしっかり整理しながら、何かに焦点をあてて、次年度につながる流れをつくる必要があります。出席者全員で、意見交換を行いました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●最近の懇談会の進捗報告 (合同部会)

- ・「シジミ、アサリを増やす森と里からの湧水」と題して話題提供を行った。シジミやアサリは植物プランクトンが重要な餌となっているが、一言で植物プランクトンといっても緑藻と珪藻をはじめとするさまざまな藻類が含まれる。中でも特に栄養塩を豊富に含む珪藻が、シジミの生息に重要な役割を果たしていることがわかっていく。窒素やリンが水中に溶けやすいのに対し、ケイ酸はガラス質として地表に固定されている。そのことが、ケイ酸を定量的に示すことができず、環境の指標に扱われにくい結果を招いている。(井上)
- ・ケイ酸の役割については初めて知ったことであり、非常に興味深く聞かせてもらった。(山本薫)
 - ▶ 薫さんが所有される田んぼのイネは、たくさんのケイ酸を吸収する。そのため、足りなくなるとケイ酸石灰肥料(ケイカル)で補う。ケイ酸石灰肥料を施すと、イモチ病などに強い個体を作ることができる。ケイ酸は、他の栄養素と違い過剰害がないという最大の特徴があり、非常に安全な物質である。(井上)

●ワークショップ

- ・矢作川の湧水(伏流水)の分布については経年的に調べられているのか。(高橋)
 - ▶ 昔は多かったが、だいぶ減ったと聞く。(加藤)
 - ▶ 安城市の住民によると、昔は少し家の周りを掘ると、簡単に水が湧いたとのこと。また、河川区域内は細い本川があり、ほとんど砂であった。(高橋)
- ・矢作川の象徴の一つは「百々の貯木場」である。その昔、川の役割として最も大事だったのは治水でも利水でもなく、木材運搬に利用された舟運であった。一般的な河川の歴史をみると、舟運が盛んな時代はダムが設置できない。次第に舟運が廃れ、鉄道に代わるようになるとダムが造られ、治水や利水の話がとりざたされるようになった。矢作川も他の河川と同様の歴史をたどっており、貯木場は貴重な遺産であると考えている。(近藤)
- ・碧南には水族館があって、昔は海であった。そこが矢作川の付け替えから土砂が流れて陸地化し、油ヶ淵ができて埋立てをした。衣浦湾では豊かな海がなくなった歴史があり、水族館は豊かな海の代償としてつくられた。(近藤)
- ・矢作川水系では、国の天然記念物であるネコギギの減少が著しい。(近藤)
 - ▶ 額田の鳥川や雨山ダムにはネコギギが多かった。減少の主な原因は何か。(沖)
 - ▶ 大きな原因の一つに砂防工事があるといわれている。(近藤)
- ・昔の写真を見ると、矢作川は大河であり、広い河原があって、子どもたちが泳いでいて、見張の大人が近くについて、堤防からみたら白い河原の風景であった。その後、ダムができて少し時間が経つと草が生い茂り、竹林が増え、大きな段差の下に川が流れるようになった。あれでは川に親しむ気にならない。自分の思いとしては、昔の河原が復活し、いかにも泳ぎたくなるような川に戻ることが望ましいと考えている。(内田)
- ・源流地域の見どころとして、サワラとブナの混交林である矢作川源流、茶臼山北面の森があげられる。また、上下流連携の山づくりというテーマで整備をしている矢作川源流の森(80年生くらいのスギ・ヒノキ)は、現在、環境教育林にしていこうという議論が生じている。他にも源流の森では、林業機械を使った搬出方法を示したモデル林、複数の自治体が特定の樹種を推奨する県産材トライアングル構想が進められている。(今村)
- ・私は、「矢作川への思いとして」とか、「矢作川の良さとして」とか、地域の人々が親しむことができる水辺をあげたいと思う。例えば、古井水辺公園や久澄橋の左岸側が、それに該当する。また、河畔林の活用として成功している場所や景観として残すべき場所についても示していけたらいいと考えている。(光岡)
- ・額田には、紙すきをしていたと考えられるミツマタの群生地がある。また、伐った木を川から流していた場所として「木下(きくだし)」という地名が残っている。このような後世に残すべき内容や地名も残していきたいと思います。(沖)
- ・ダムにより濁水が長期化するなどの問題もある。ダムの撤去による長所短所を議論することも必要だと思う。(井上)
- ・矢作川の湧水や伏流水の今昔を考えたい。また、流域下水道の栄養塩類の削減と再放出についても確認したい。(高橋)
- ・魚の密度など経年的な調査が必要だと思う。また、川を一定の間隔で団体に貸し与えて管理させてはどうか。(菅原)
- ・中山間地の過疎の問題は、流域市民が自然に接しない生き方にある。自分は過疎にならないように、移住定住の促進に力を入れている。過疎化の防止が維持できなければ、流域全体が崩壊することは東海豪雨が証明している。シカやイノシシが増えたのは山奥まで人が行かなくなったためだ。林道なども山に行く人が少しずつ手直しをすれば、大きな災害にはならないと考えている。トヨタ自動車も山が荒れたら産業がダメになることはわかっている。(山本薫)
- ・やはり水量の減少が問題だと思う。それから、もう少し生き物に優しい魚道を整備してほしい。(加藤)

●まとめ(市民部会が期待する流域圏のあり方・今後の市民部会について)

- ・HPにアップされた地図を頼りに名所を巡っている人がいる。市民目線で何か発信すれば、それを利用する市民はいると思う。(高橋)
- ・単に名所の紹介ではなく、流域圏の課題を浮き彫りにした地点選考が必要だ。(山本薫)
- ・今回の意見を図面にまとめて、次の部会でさらに検討を重ねていきたい。(事務局)

今後の予定

■第3回市民部会

日時：平成30年12月14日(金) 14:00~17:00 豊田市崇化館交流館3階 第1研修室



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野



*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H30 市民部会編 vol. 3



発行日：平成 31 年 1 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 3 回市民部会を開催しました！

今回の WG では、第 2 回 WG のワークショップで挙げられた意見をカテゴリー化し、矢作川流域の情報を整理しました。また、今後の市民部会の方向性を明確にするために、標語を作成しました。活動の最後には、市民部会（市民会議）の 9 年間のまとめを行い、今後の体制について意見交換を行いました。

日 時：平成 30 年 12 月 14 日（金）14:00～17:00

会議場所：豊田市崇化館交流館 3 階 第 1 研修室

参加者：11 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. これまでの市民部会の進捗と第 3 回市民部会の目的



【これまでの市民部会の進捗】

第 1 回市民部会では、「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の 3 つのテーマについてこれまでの活動を振り返り、流域の市民目線で意見交換を行いました。その中で、市民が矢作川流域の情報に触れる機会が少ないことが課題として挙げられました。そのため、第 2 回市民部会では、流域の優れた点や問題点などの様々な意見を地図上に列記し、空間的に情報を把握できる流域マップを作成しました。

【第 3 回市民部会の目的】

第 3 回市民部会では、矢作川流域に住む市民への情報発信に向けて、第 2 回市民部会で作成した流域マップ上の意見の整理を目的としました。そこで時間軸を基盤として、矢作川流域がこれまで歩んできた過去と現在にかけての良い点と悪い点、将来を見据えた意見についてカテゴリー化を行いました。

また、9 年間の市民部会（市民会議）のまとめを行うとともに、今後の方向性を明確にするために標語の作成に取り組みしました。

2. ワークショップ ～意見のカテゴリー化～



過去、現在、将来という一連の時間軸の中で、良い点と悪い点という大きく 2 つの枠に意見をカテゴリー化しました。結果としては、過去の悪い点は最も少なく、過去の良い点、現在の良い点、現在の悪い点という順番で意見の数が多くなりました。将来については、今後評価していかなくてはならない意見が並びました。これにより、現在の悪い点が明らかになり、今後解決していかなくてはならない課題が多いこととその内容について再認識しました。一方で、過去の良い点を求めるのではなく、過去から学び、将来に向けた新たな矢作川の再構築が必要であることを共有しました。

3. ワークショップ ～市民部会の標語の作成～



山・川・海の恵みにつながる矢作川をつくる ～今新たに！「流域はひとつ」生命共同体～

矢作川の恵みにより人々の生活は成り立ち、流域圏内の産業が発展してきました。市民部会は矢作川の大切さを再認識し、より良い矢作川流域圏の再構築を目指すために、標語を作成しました。



4. 9 年間のまとめ



市民部会は、行政の方や学識経験者が参加していない市民を中心とした部会です。そのため、データや学説に基づいた議論ではなく、流域圏に住む市民目線でののびのびとした意見交換を行うことができました。また、異なる地域部会の参加者が集まっているため、これまで知ることのなかった各地域部会の情報共有の場にもなっています。これにより、流域を広い視点で捉えることのできる部会となりました。

今後の市民部会としては、各地域部会の話題や課題を拾い出し、課題解決に向けて、合同部会の開催の提言や各地域部会への情報発信を行う場としていきたいという意見でまとまりました。

◆ワークショップ ～意見のカテゴリライズ～ の結果

「過去」は、ネコギギなどの生物が多く生息していたこと、湧水が多くのある場所が確認されていたことが良い点として挙げられましたが、生物の生息データの蓄積がないことが悪い点とされました。それに対して「現在」は、良い点として土砂災害の減少が挙げられており、これまでの災害対策の有効性について再確認できました。一方で、水質の悪化や水量の減少が悪い点として注目を集めていました。また、農林業の衰退も悪い点として挙げられており、後継者不足への対策が求められました。「将来」は、他の河川の流域住民との交流を深めていきたいという希望や、矢作ダム必要性について再評価したいなどの将来的な活動を見据えた意見が並びました。



	過去	現在	将来
良い点	ネコギギ、カワセミ、シャコ、アサリが多く生息 湧水が多かった	土砂災害の減少 上下流連携の山づくり 環境教育林の整備 地域資材の利用拡大 郷土料理（アユ・自然薯）が食べられる 水源の清流で水と親しむ場が誕生	他の河川流域住民との交流 用水路・支川の利用方法の検討 矢作ダムを撤去したときのメリット・デメリット
悪い点	ヘドロの蓄積 生物の生息データの記録が乏しい	水質の悪化 水量の減少 外来生物の増加 獣害の増加 山の手入れ不足 河原の樹林化・荒廃 農林業の衰退・後継者不足	

◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

●ワークショップ ～意見のカテゴリライズ・標語の作成～

- 過去の良いところをそのまま今に生かせるわけではない。昔は不便な面もあり、昔の生活に戻っても何の意味もない。そのため、知恵を絞って過去の良いところを生かして、今にどうつなげるかを考えなくてはならない。（高橋）
 - そして、今の様々な活動が全て悪い影響を与えているかということそうではない。（光岡）
 - 「時・水・人・恵み」が今の時代にどのようにつながっているのかを再認識し、新時代に向けた再構築を目指すべきである。（近藤）
- かつては湧水がいろんなところで出ていて、アユを育て、米を育て、魚介類を育てたのだと思う。（井上）
 - 川自体が良いと、流域の人たちは恵みを得ることができた。川に生かさせていただいたとすごく感じる。（沖）
- 豊田や岡崎は矢作川のおかげで産業が発展した。一方で、大きなダムがなかったら、豊田に大きな町をつくることができなかった。いろんな視点から矢作川を考える必要がある。（高橋）
- 最近、矢作川流域圏懇談会の刺激が旧額田町に生かされるようになり、新しい会がいっぱいでき始めている。（沖）

●市民部会の9年間のまとめ・今後の体制について

- 市民部会が各地域部会に刺激を与えることができたかと考えると、入り口に立ったくらいだと思う。今後は地域部会（山・川・海）に横串を刺せる存在となれたらいいと思う。（近藤）
- これまでは川部会のみに参加していたが、市民部会に参加することで広い場所からものを見ることができた。（加藤）
- 今年度の市民部会で矢作川の望ましい姿をイメージ化することができなかった。（光岡）
- 懇談会のメンバーが少なくなってきた。この理由も考えていかなければならない。（菅原）
- 市民部会でも泊りの研修などがあると面白いと思う。（加藤）
 - 市民部会の提案で合同部会やエクスカージョンを開催できたらいいと思う。（近藤）

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。

